

秋田県埋蔵文化財基準資料

# 縄文時代土器集成 I (後期)



2 0 1 3 . 3

秋田県埋蔵文化財センター  
Akita Archaeological Center

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡  
出土の「岩偶」です。  
縄文時代晚期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

秋田県埋蔵文化財基準資料

# 縄文時代土器集成 I (後期)

2013.3

秋田県埋蔵文化財センター  
Akita Archaeological Center

## 刊 行 に あ た つ て

埋蔵文化財は国や地域の歴史と文化を知る上で重要です。そのため発掘調査が行われると、その調査結果をまとめた発掘報告書を刊行し、出土遺物は大切に保存されることになります。しかし、残念なことに多くの発掘調査は公共事業等の行政目的のために行うため、その調査が終了すると、遺跡は特に重要な遺跡でなければ残されることなく、次の発掘調査が控えているため、出土遺物を広域的に振り返って系統的に集約したり、各時期の特徴を概観する余裕を持てないまま進んできたように思います。したがって、ごく一部の出土遺物しか利用・活用が進んでおらないという思いがのこりました。

しかし、埋蔵文化財センターは開設されて30年を経過し、一定の調査結果は蓄積してきていると考えて、自分たちが手がけてきた遺跡の出土遺物を今後再整理し研究するためには、この段階で一応の集約しておく必要があると思いました。手始めに時期を世界遺産登録に係る大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡と同時期の縄文時代後期と決め、多種多様な遺物の中から代表的な縄文土器を集め、その特徴的な器形や装飾を把握し、変遷が分かるように模式図に集約してみました。

これをもとに県内の縄文土器に関する基本研究が盛んになるとともに、多くの方々が利用くださり、より一層研究が進展して秋田の縄文土器の重要な指標が確立され、時期的・地域的特色が明らかになる土台になればよいと考えています。

平成25年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所 長 高 橋 務

## 例　　言

- 1 本書は、秋田県埋蔵文化財センターが設立された昭和56年から平成24年までに発掘調査を実施した遺跡の縄文時代後期の土器を集成したもので、秋田県埋蔵文化財基準資料の1冊目である。
- 2 本書に掲載した土器には、市町村が調査主体で行った遺跡の土器は対象としていない。
- 3 本書に掲載した土器の図は、一部をトレースし直したるものがある。また、縮尺は全て1/4に統一してある。模式図と図版中の土器番号は土器挿図の番号に倣っている。
- 4 本書に掲載した土器の図の出典(発掘調査報告書)は、末尾の表に載せている。
- 5 掲載土器一覧表の双書番号とは、秋田県文化財調査報告書双書番号のことである。
- 6 本書の編集は、秋田県埋蔵文化財センター職員からなる秋田県基準資料集成委員会が行った。  
委員：柴田陽一郎　高橋忠彦　榮一郎　栗澤光男　小徳晶
- 7 本書を作成するにあたり　次の機関から協力をいただいた。記して感謝申し上げます。  
秋田県立博物館　美郷町学友館　横手市増田まんが美術館

## 目　　次

刊行にあたって

例　言

目　次

I　概　要.....	1
II　後期の土器.....	5
III　変遷模式図.....	41
IV　写真図版.....	49
V　掲載土器一覧表.....	57
奥　付	

## I 概 要

本書に掲載した縄文時代後期の土器は253点で、北秋田市の漆下遺跡や伊勢堂岱遺跡などに優品がみられるが、県内全体を見渡すとこれら遺跡の他にも、県南では横手市の越上遺跡や八木遺跡、江原嶋1遺跡、沿岸部ではヲフキ遺跡、智者鶴遺跡、北部では上記2遺跡のほか、小坂町の中小坂遺跡や鹿角市の高屋館遺跡などがあり、それらの土器も掲載している。

第37～40図の変遷模式図にも253点全てを収載している。この変遷図は、後期を大きく前葉と後葉に分けて、それに該当する土器を並べてあるが、あくまで概略であって、土器の縦軸がそのまま時系列どおりに並べてあるわけではない。

以下には、最も多い深鉢形土器を中心に土器の概要を述べる。

### 深鉢形土器（第1～18図1～89）

前葉の土器では、前半期に八木遺跡に好例をみることができる。C字状の文様とそれを縦に区画する隆帯上には刺突がみられ、それが3では縄文部が窓状に囲われ、それを隆帯で囲んでいる。文様帶は胴部上半に限られる。5のように無紋の頸部が表現され、3でもみられた口縁部の波状がさらに顕著になり、波頭部横からは胴部上半の刺突列を四角に囲む隆帯が垂下する。さくくれ状の刺突は北陸の三十稻葉式につながる文様であろう。4の日廻岱B遺跡の土器は、狩猟文土器と考えられる。内面が壁によって区切られている特異な土器である。6・7の口縁部は二重口縁になり2とのつながりがみられる。6の文様帶はC字状文の名残りがあり、口縁部の波頭部と波頭部の間から5にみられる斜めに流れる隆帯がある。7～9の文様構成はC字状文が横に延び連結して器面全面を覆う。この段階の鉢形土器では、7・8の文様にみられる釣針状文が主体となる90～95の浅鉢形土器がある。口縁部は波状となり、釣針状文や縄文帯を弧状の向かい合う短沈線で結ぶ93などがある。江原嶋1遺跡や八木遺跡で出土している。11～13には縄文を地文にして胴部上半に低い波頭部に対応して2ないし3本の垂下する沈線で胴部上半を区画し、その中を向かい合う弧状の沈線が描かれる。11の口縁部の波頭部には円孔部を中心とする同心円状の沈線文がある。次の段階になると、14・15では地文を縄文とするのは変わらないが、垂下する沈線間の文様は線対称ではあるものの、14では瓢箪形の文様となる。15では垂下する沈線を斜行する沈線で結ぶ。地文を縄文にして垂下する沈線をこれも線対象とする弧状の沈線文が描かれる。

深鉢形土器16・17では波長部が5～7個の奇数になり、胴部文様帶は弧状の沈線で描かれ、18・19では、文様帶が上下の2段に分かれ、弧状の沈線と斜行する沈線で構成される。この段階の土器は漆下遺跡や伊勢堂岱遺跡で好例がみられる。20～24の文様構成は基本的には、前の11～13に描かれる沈線文のみが残され無文地に文様が引かれる。これらの土器は高屋館跡など北部に代表される。次の土器群も文様は胴部上半の限られ、25のように上下2段に文様構成が分けられる前段階の28を踏襲しながらも沈線の末端は丸くなり、29ではその末端が入り組む。39のような大型の深鉢では沈線間に縄文が充填され、沈線の末端は入り組み、文様も多段に施される。30～43は、緩やかな波状口縁を持ち文様帶は胴部上半に限られ、縄文帯が渦巻き状になるものや大きく蛇行しながらうねるように横に展開していく。前者の渦巻文は波状口縁の波頭部の位置に対応する。42・43の縄文帯は幾何学的になる。44～49の器形は前段のものと変わらないが、文様帶が胴部上半に狭まり、波状口縁部の波頭部が丸くなったり低くなったりと次の段階の50～54などの口縁部に近くなり、波頭部は4単位となる。特

に51や53のように口縁部が大きく外に開く土器もある。文様は縄文帯や縄文地文に無文帯が直線的に展開されるものあり、55・56では幅の広い縄文帯による入組文が胴部上半に展開する。57~66は胴部上半から大きく花弁状に開く土器である。57~59では4単位の花弁状の口縁部で胴部上半に数段の縄文帯を連鎖状の沈線が繋ぐ。60~61では、花弁状の口縁が大きく外に開き、文様帶は前者と同様である。62~66は5個の花弁が、直線的に立ち上がる胴部から大きく外に開き、口唇に刻みを持ち、胴部文様帶が縄文帯を連鎖状沈線で繋ぐものや、大ぶりな入組文が胴部の器面全体に描かれるものがある。67~71は台付深鉢になるものである。直径の小さな台部から直線的に口縁部に至る器形だが、口縁に3個の突起が付くものである。突起の形には69のように円筒形や71の鰐状のものなどがある。文様は、大ぶりな入組文が器面全体に展開する。72~75では口縁部が4あるいは5個による花弁状の大きく外に開く器形で、口縁部先端には縄文や刺突が施され、文様は縄文帯が弧状に展開する72や75、幅の広い縄文帯が入り組む73・74がある。この時期にはヲフキ遺跡にも多くの例が見られる。76~82は波状口縁や低い突起が付くもので、文様構成は前者と変わらない。

82の文様は、幾何学的な沈線で縄文部が画される。83~89は瘤付土器で後期終末に位置づけられる土器である。口縁部は平縁や低い波状86のように大きく花弁状になる土器がある。文様は多段の入組文が胴部上半に描かれるが、83や86のように、胴部下半には縄文や撚糸文を地文として、格子目状に沈線が施される。この段階の土器は、漆下遺跡のほか、湯沢市の堀ノ内遺跡、沿岸部の菖蒲崎貝塚、美郷町の石名館遺跡などにもみられ、ほぼ県内全域で出土している。

#### 鉢形土器（第19~25図90~156）

7・8の文様にみられる釣針状文が主体となる90~95がある。口縁部は波状となり、釣針状文や縄文帯を弧状の向かい合う短沈線で結ぶ93などがあり、江原嶋1遺跡や八木遺跡で出土している。口縁部が4個の突起や波状口縁で、胴部には連鎖状やフック状の文様が描かれる。後期の初葉に位置付けられるこの浅鉢形土器の一群は、東北南部の影響が見て取れる。96~109は文様が沈線のみで構成される土器で、垂下する沈線間に弧状や斜行する沈線を施す96・97・101~103や、多段に入組文が描かれる106・107などがあり、深鉢形土器に対応する。

100は無文地に粘土紐を上下でかみ合うV字に貼り付けた土器で、他に類例をみないが、文様構成としては101や103と同様なのであろう。110~112は縄文を地文として沈線で斜行や弧状の文様が描かれる。波状や平縁の口縁で丸い胴部に最大径を持つ。115~116は沈線で文様が描かれ、文様間はS字状の沈線で繋がれる。114・115では重心の低く最大径のある部位に張り出す部分を作り出し、底に縦方向から孔を穿ち、紐を通すことで釣り手形の土器として使用したものと考えられる。

118~123は沈線か隆帯で文様を構成している土器で117・118は隆帯で四角く区切られる部分を作り出していく、120~124では沈線で文様を描き、入組状文や直線と弧状の沈線で表現される土器がある。123・124では底部外面にも沈線で胴部文様と同じ文様が描かれる。123・124は大館市の萩峰遺跡と塚の下遺跡から出土している。126~128では外に大きく開く波状口縁の波頭部に対応し横から走る縄文帯の入り組み部が付される。この段階で、157・158の小型の台付鉢形土器が現れ、文様は126~128などと同様の文様が描かれる。模式図では、161~165までの一群と157・158との間にヒアタスがあるように見えるが、ほぼ同時期と考えられる。130・131などは幾何学的な縄文帯で文様が構成されるが、131の文様は深鉢45と同様な縄文帯がクランク状に描かれる。132~139では椀形をした器

形に横走する縄文帯を弧状の短沈線で繋いでおり、深鉢60・61などと同様な文様である。

この段階で151～153の片口の鉢形土器が出現する。丸みのある胴部から突き出すような片口部とそれと反対側では内側に瘤状の突起が付き大きく外側にせり出す。文様は153では全面に入組文風の文様が描かれ、151・152では口縁部に縄文が付される。出土例はそれほど多くはないが、151は漆下遺跡、152は越上遺跡、153は潟前遺跡から出土している。154は中小坂遺跡出土で口縁部の直径が60cmもある大型の鉢形土器である。直径12cm、高さ2cmの高台から胴部は大きく膨らみ、一度段を持ってそこから口縁が外に向かって開く。口唇には9個の鰐状の突起が付き、口縁部は無文で、胴部には大振りな入組文が描かれる。141～143の鉢形土器は、深鉢形土器の62・66・63などの文様と同じであるが、141は円筒形の器形で、胴部中央に幅の広い縄文帯で曲線的な文様が描かれる。144～149は、底部から丸く膨らみのある胴部、垂直に立ち上がる口縁にいたる器形で胴部の文様は144や145にあるように入組文や、150・148・149などに描かれる細い縄文帯が重なり合う文様が施される。

#### **台付深鉢形土器（第26図157～170）**

161～168はそれぞれ深鉢形土器73～77などに対応するが、162は沈線で同心円状の四角い文様を描く、またこの段階の台付鉢形には163のように、底面内面中央部に刺突文や縄文が施される土器がある。169・170では、口縁部にいくつかの突起を有し胴部には、77・82と同様な入組文やケランク状の文様が描かれる。167～171は瘤付き土器で後期終末期に位置付けられる。

#### **壺形土器（第27～31図172～210）**

172・173は八木遺跡出土で、縄文を地文として胴部上半に沈線で渦巻文を描く。173の口縁部には4個の橋状取手が付く。174は胴部にX字状に交差する沈線を数状引き、交差してできた4つの空間に楕円文や渦巻文などを描いており、鉢形土器109・120と同様な文様モチーフである。175・176・178・179は底部から丸く膨らみのある胴部、径の小さな頸部が付く。文様は胴部上半に限られ、数条一組の沈線によって入組文が描かれる。177・180～182は、底部から卵形の胴部、径の小さな頸部、わずかに外に開く口縁部からなる器形で、胴部には隆帯でもって文様が描かれる。181では胴部を一周する連続する細長い窓によって上下2段に文様帯が分けられる。2段の文様は斜行する隆帯の末端が入り組むもので、182では、これも細長い窓を十字に配置することでできる空間に末端が丸く入り組む隆帯で表現している。180も文様は隆帯で表すが、前2者のように区画される広い空間はなく、胴部を隆帯で細かく、区画している。204は伊勢堂岱遺跡出土の瓢箪形をした土器である。大小2段からなる胴部とそれに円筒形の頸部が付き、文様は下の胴部に沈線で楕円文が描かれる。191～190は球形の胴部上半に縄文帯による入組文や渦巻文が描かれる土器で、深鉢形土器の37や42などに共通する文様である。205・206は切断形の土器で、文様は177や180などに共通する。208～210では、下膨らみの胴部にアヒルの嘴状の片口が付く土器である。胴部には縄文が付され、上半から口縁部に末端が渦巻状となる縄文帯が走る。207では、洋梨形の胴部に片口が付き文様は深鉢形土器の文様と同様の直線的な縄文帯で描かれる。片口部分の造形は鉢形土器151～153に共通する。192～196は胴部中央部に最大径のある球形の胴部に大きく外に開く口縁部のある器形で、胴部には入組文が描かれている。198～200のうち199・203球形の胴部に、入組文が199では縄文帯で、203では沈線で文様が付される。202は越上遺跡の土器で、低い高台が付く算盤形で、胴部中央部を矢羽根状の刻目列が一周す

る。201は寒沢遺跡出土で、細頸の一輪挿し状の壺である。全面に、交差する2条一組の沈線が施される。頸部下部に瘤の列が巡る。197・200の文様は深鉢形土器73・74などのそれと同様であり、貼瘤が付されている。

#### **注口土器（第32～35図211～241）**

注口土器は、後葉前半期から多く出現てくる。232・231はいづれも漆下遺跡のものである。径の小さな底部から大きく外に開く胴部を有する器形で、胴部上半に比較的大きな注ぎ口が付くが、どちらかと言えば片口の鉢形土器の範疇に含まれるものかもしれない。但し、片口部分が、口縁部の波長部から延びる隆帯が片口部を巻き込んでいて、片口部も文様を構成する一部であり、こうした点は小田IV遺跡の注口土器241の注口部が文様に取り込まれている文様構成と同様である。234～236は口縁部に装飾性の高い突起が付き、高台状の底部のあるもので全体の器形は232などと同様である。胴部の文様には数条一組の沈線が、V字状などの文様を描く。212・211・217はヲフキ遺跡出土で、小型の球形の胴部には沈線文のみで注口部を中心とする弧状文や入組文が施され、口縁部は低く立ち上がる。227・228の胴部には太い縄文帯で入組文風の文様を描き、227では頸部が一膨らみ、それに低い口縁部が付く。214・225・226では細い縄文帯が注口部を巻き込みながら、胴部全体に展開される。この文様構成は222や223などの彫刻的な沈線文様に受け継がれ、また224では縄文帯に代って数条一組の沈線文となる。229・230は、器面全面が丁寧に研磨され、前者は黄褐色を後者では黒色を帶びていて、胴部には大ぶりな半彫刻的な文様が施される。241は高台に丸く膨らみのある胴部、外に開く幅のある口縁部に至る器形であるが、小さい底部に比べて大きな胴部であるにもかかわらず、安定感のある器形である。胴部文様は入り組み風の縄文帯の末端が丸くなるメガネ状文様が胴部を巡っている。237・238は後葉の終末期の貼瘤のある土器である。

#### **単孔土器（第36図242～250）**

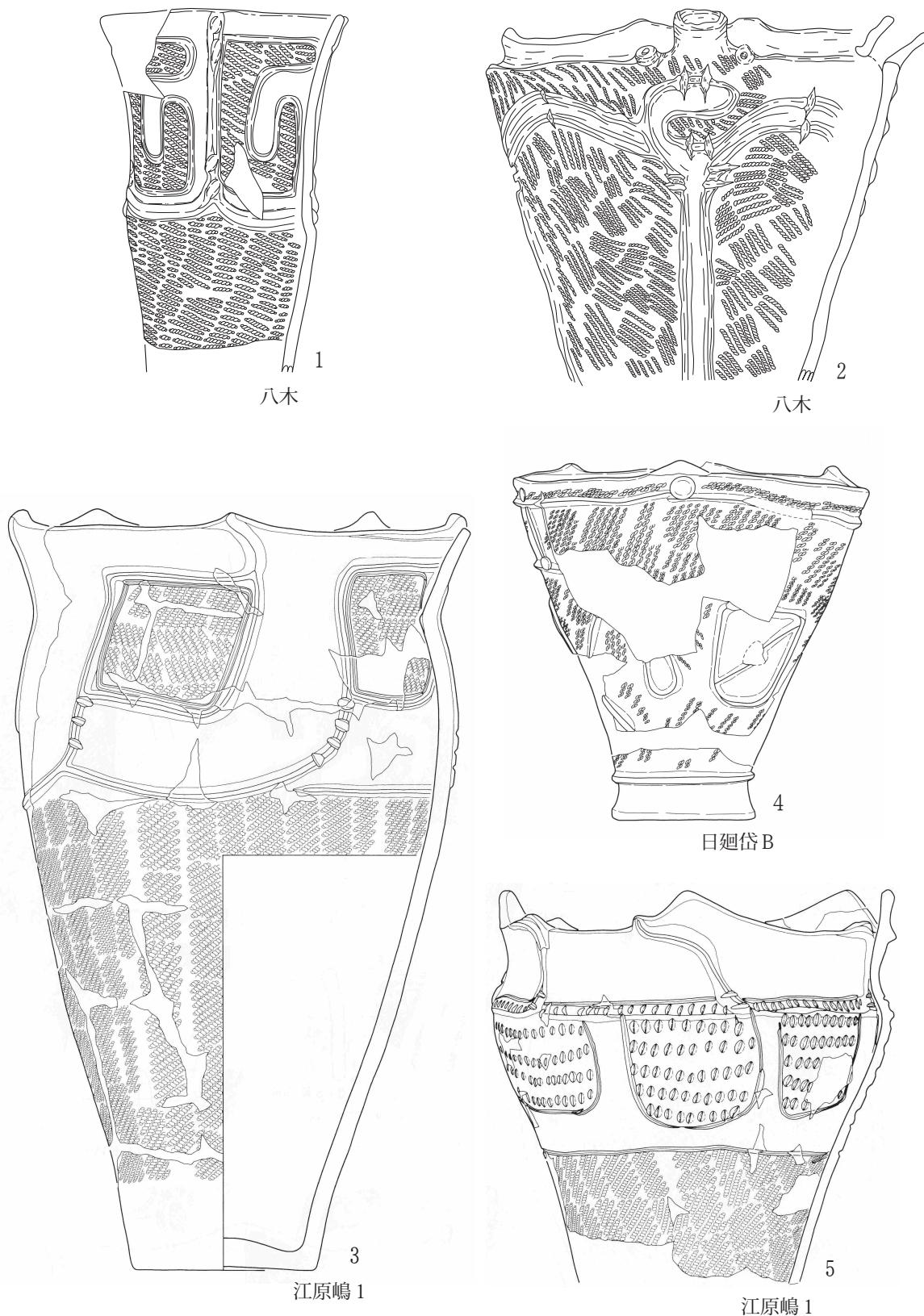
細身の壺形土器の胴部下端に小さな孔が穿たれる土器である。後葉に現れ、出土例は少ないが地域的には八木遺跡、智者鶴遺跡、日廻岱A遺跡、漆下遺跡、中小坂遺跡などほぼ県内全域から出土している。242・243・246・248・249は徳利形の胴部に僅かに外に貼り出す頸部、外に開く口縁部をもつ土器で、胴部文様帯は、縦の縄文帯に区画される242・243・249などがある。250は、由利本荘市の智者鶴遺跡出土で、細長い円筒形の胴部に低い口縁部の付く土器で、胴部文様帯は5段に区画され、中に入組文が描かれる。244・245・247は重心が胴部下半にあり、孔が前者よりも高い位置に穿たれ、文様も横走する縄文帯が表現される。

#### **香炉形土器（第36図251～253）**

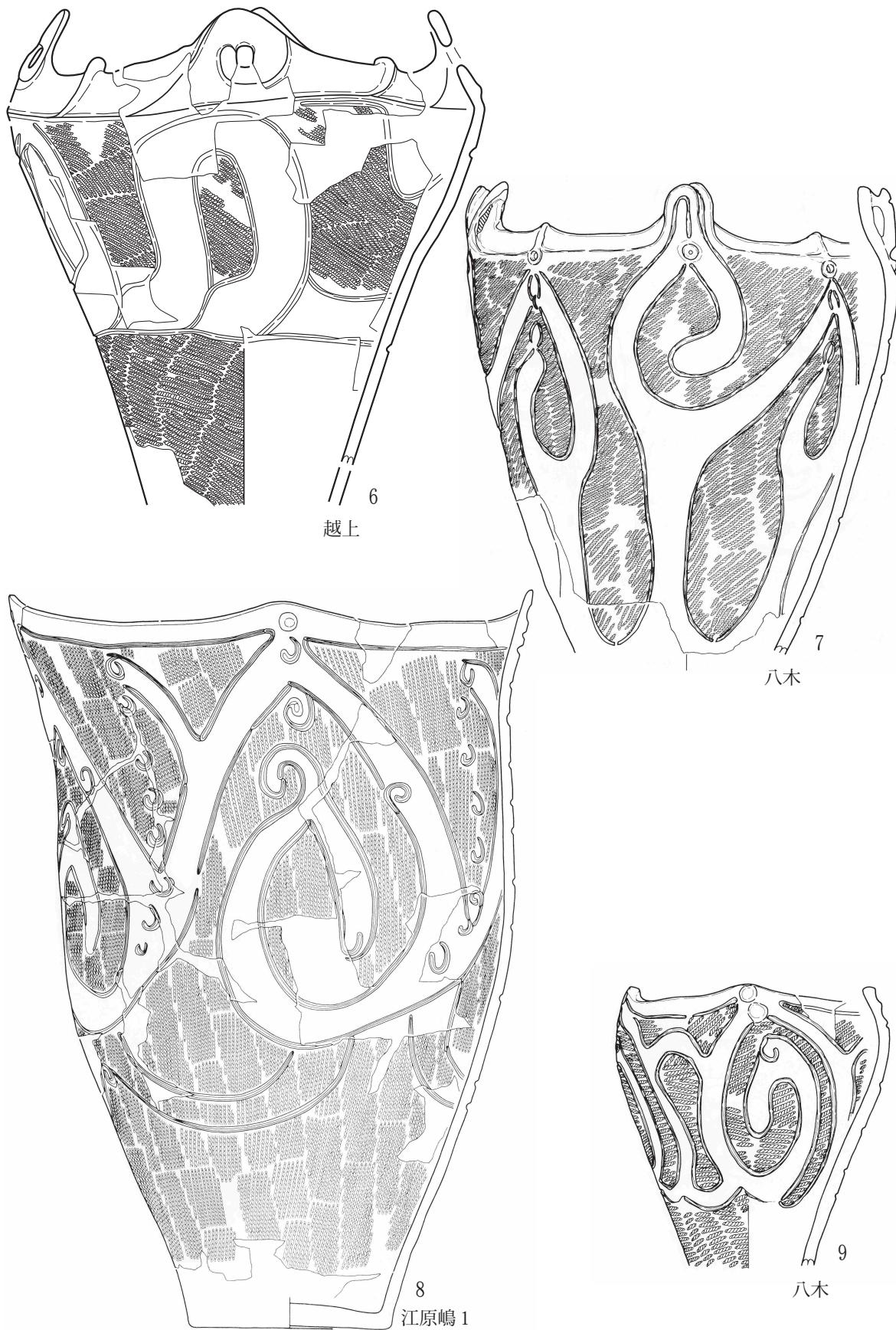
図示したのは3点であるが、漆下遺跡などからは他にも出土している。251は深鉢形土器56や71などの文様に類似している。252は貼瘤が付される土器である。

縄文時代後期の土器についてその概要を述べてみたが、後期前葉前半期には県南部で八木遺跡や江原島1遺跡に前の時期の中頃大木様式に続く土器を顕著に見てとれ、これに対応する県北の土器としては、伊勢堂岱遺跡や漆下遺跡で出土していることがわかる。次の前葉後半期には県北で鉢形土器や壺形土器など多様な文様と器種が豊富となり。次の後葉の花弁状の突起を有する深鉢形土器の段階で県内ほぼ同じような土器の変遷をたどり、次の晩期に継承されることになる。

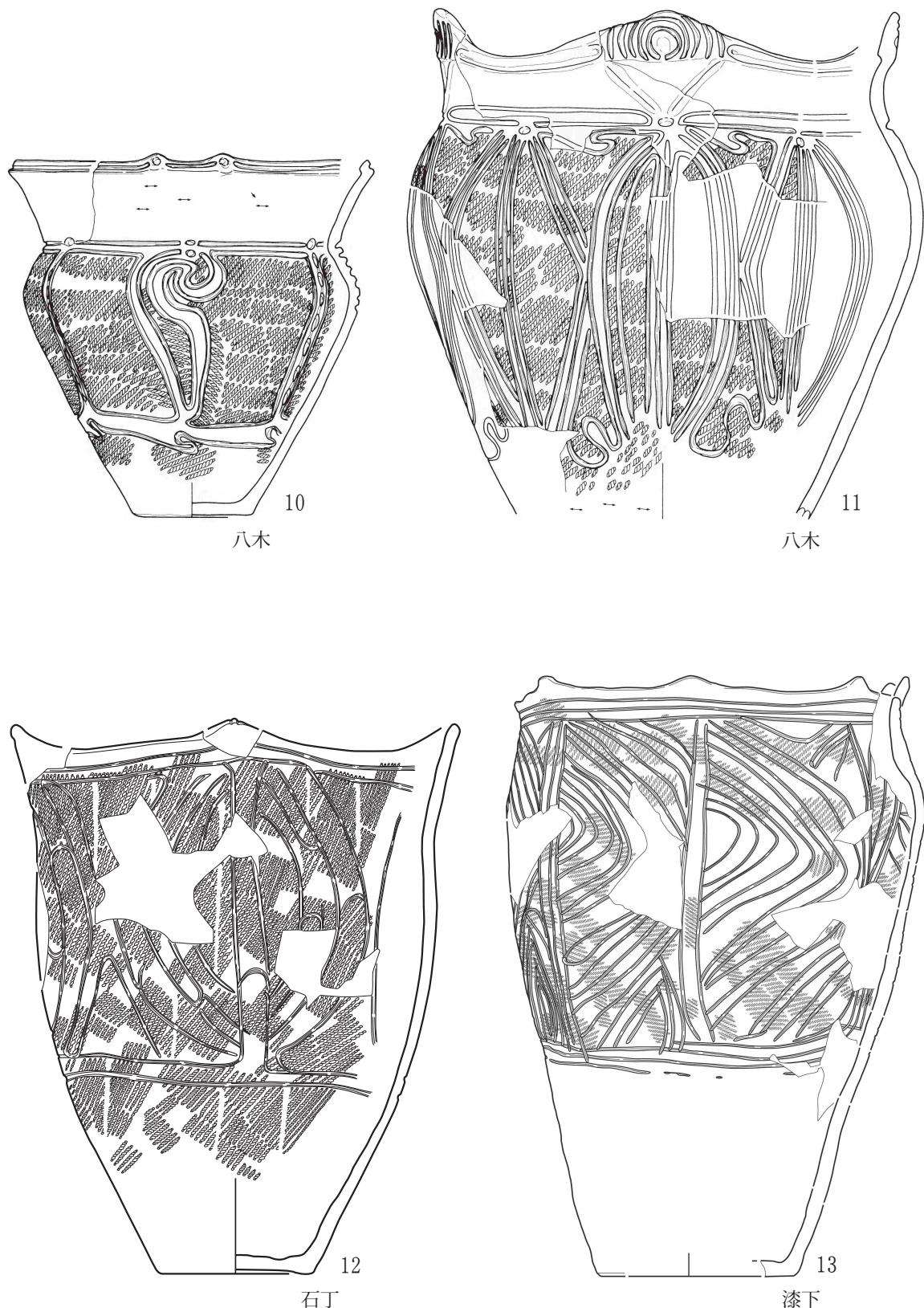
II 後期の土器



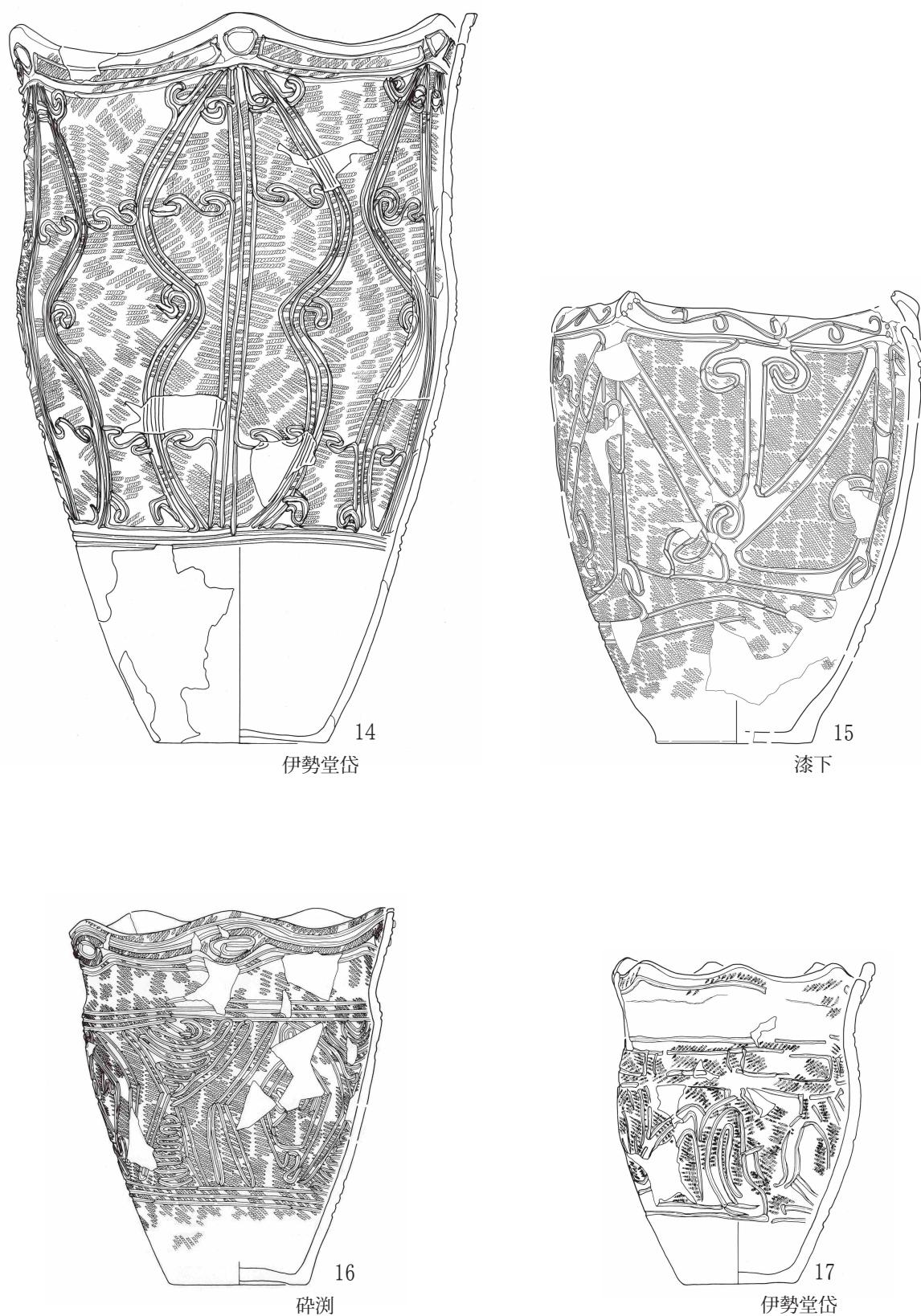
第1図 深鉢形土器 1



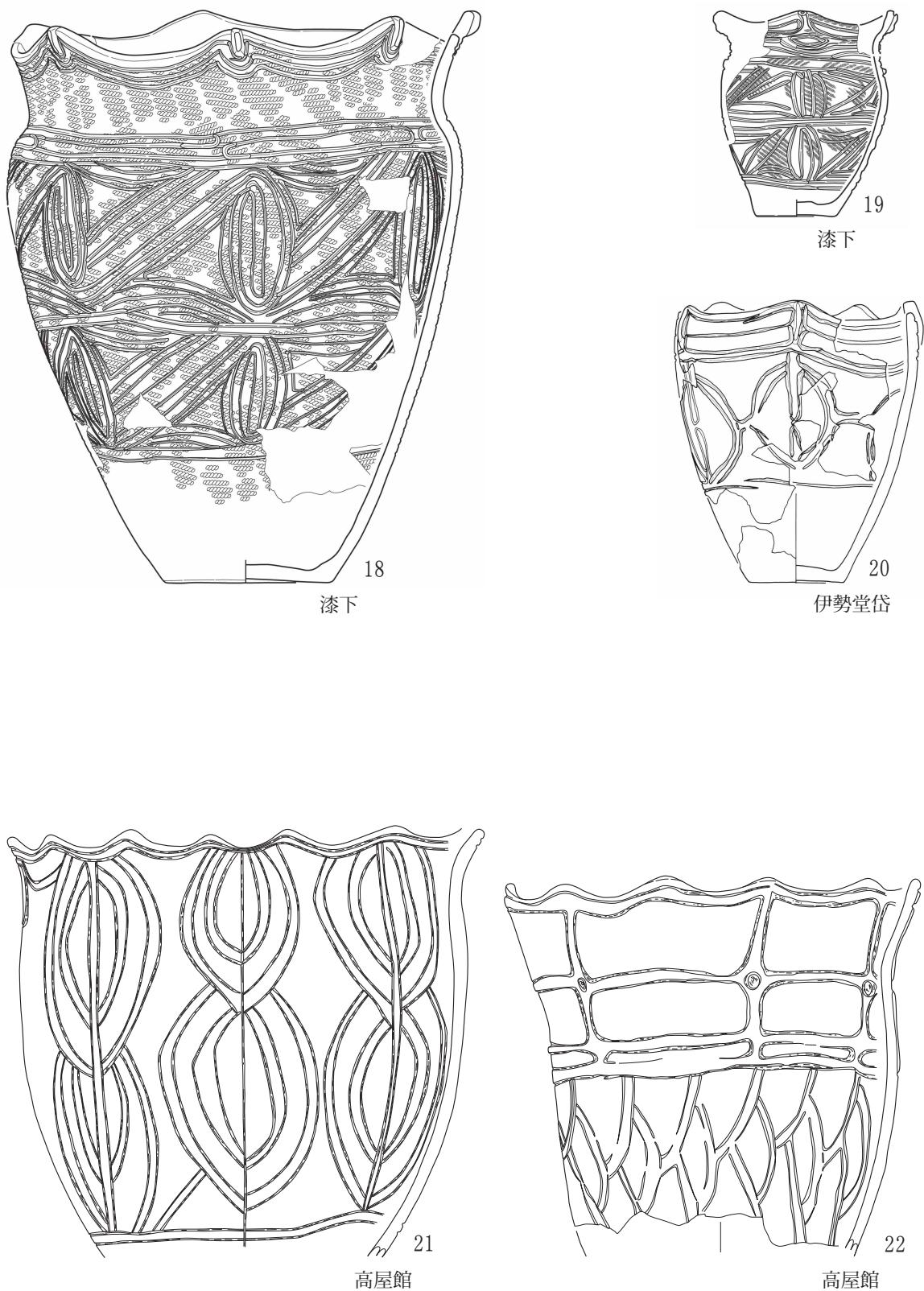
第2図 深鉢形土器2



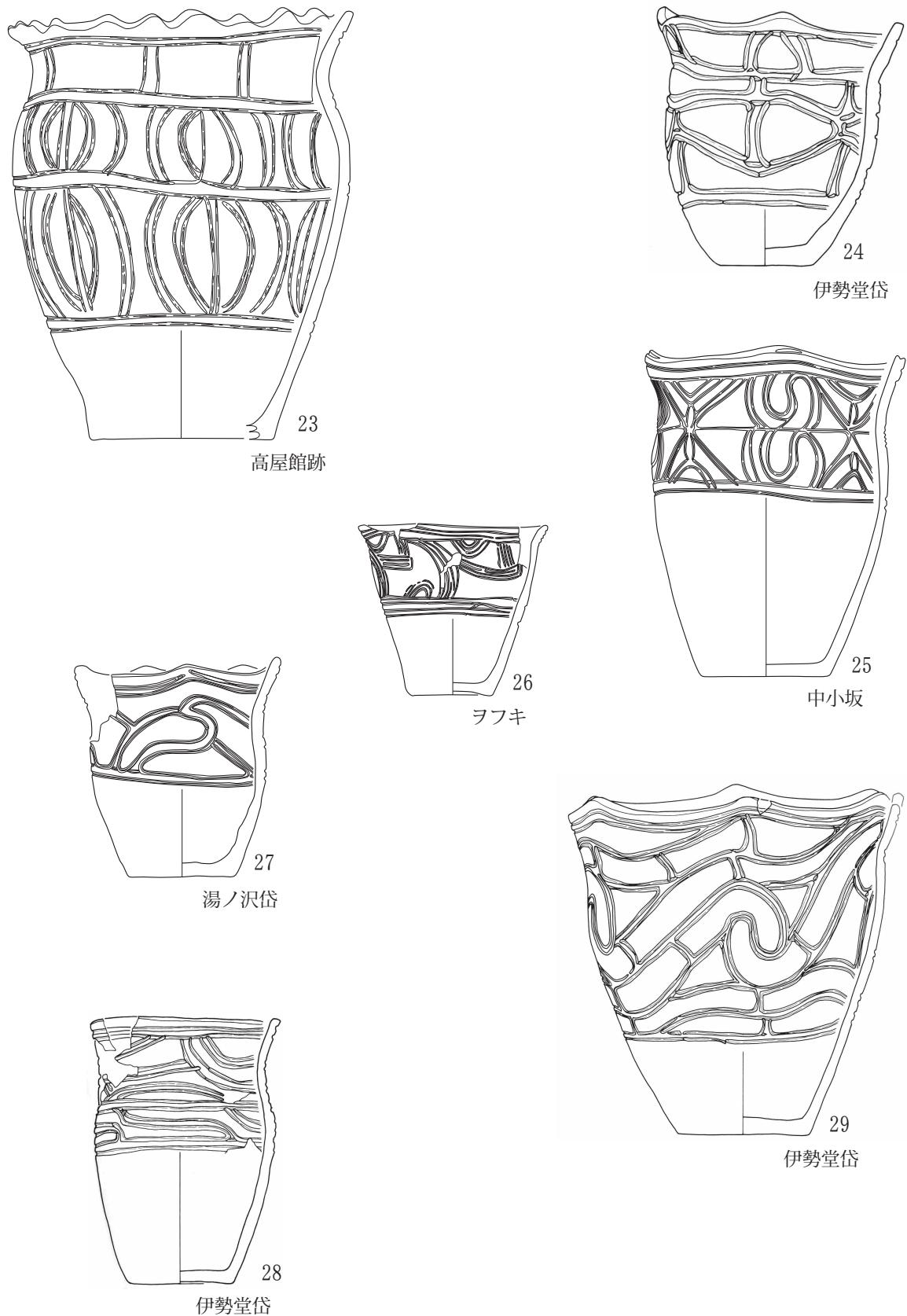
第3図 深鉢形土器 3



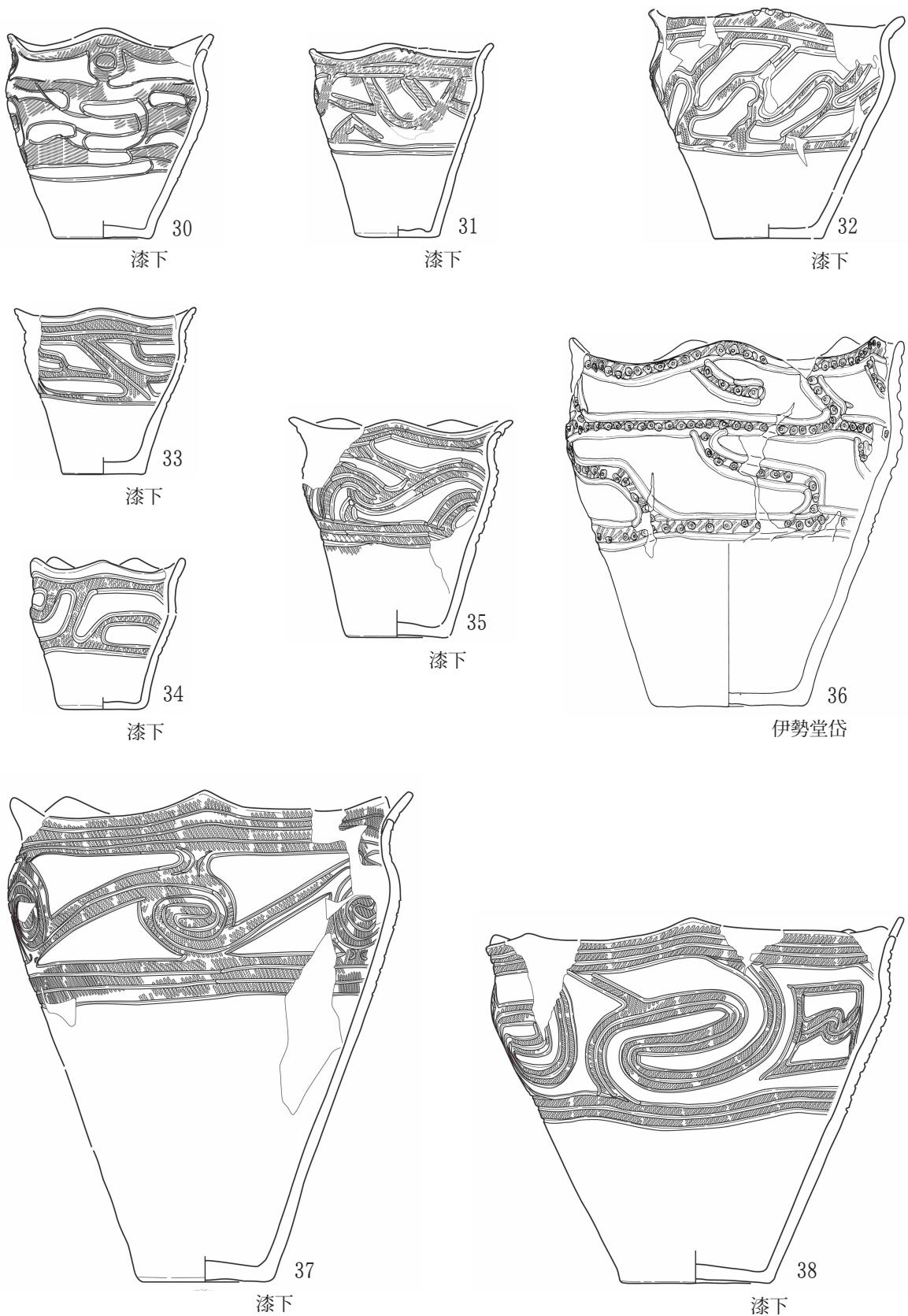
第4図 深鉢形土器4



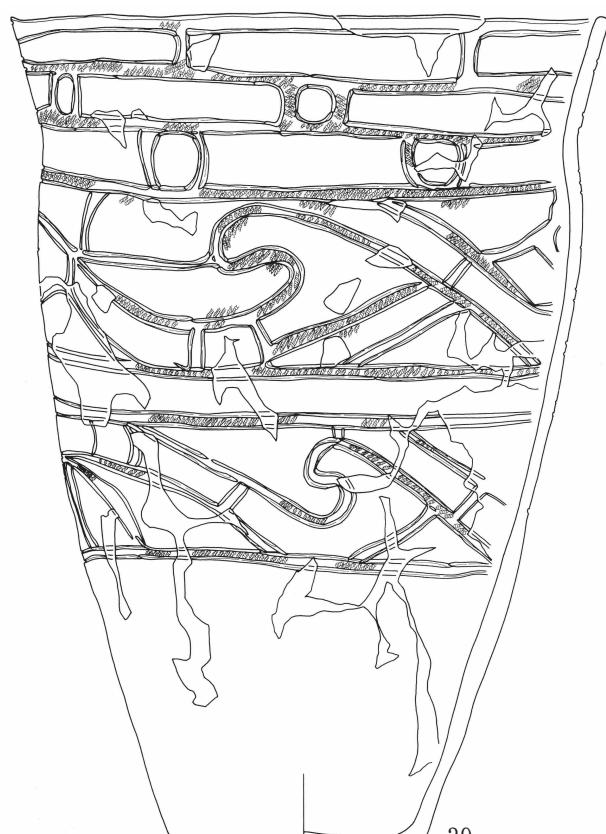
第5図 深鉢形土器 5



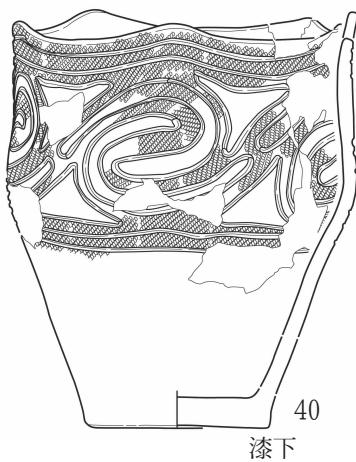
第6図 深鉢形土器 6



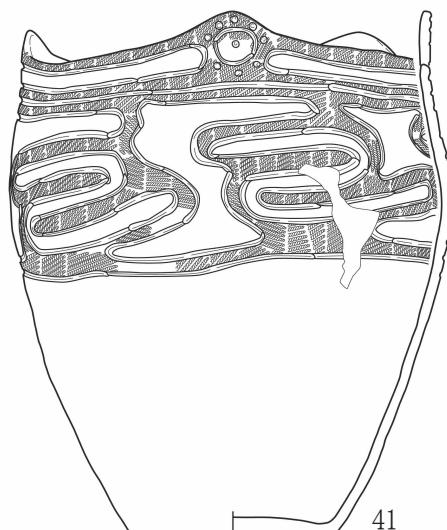
第7図 深鉢形土器 7



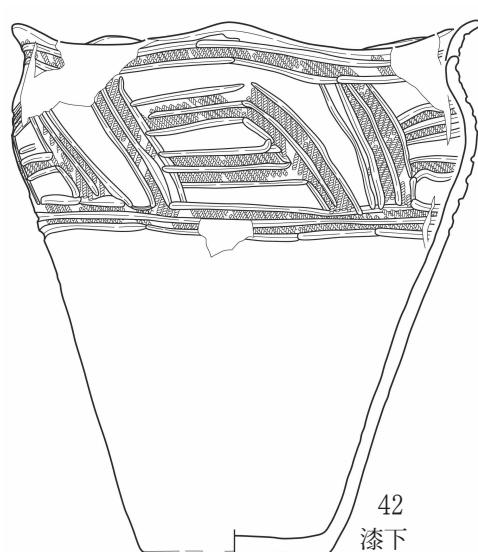
伊勢堂岱  
39



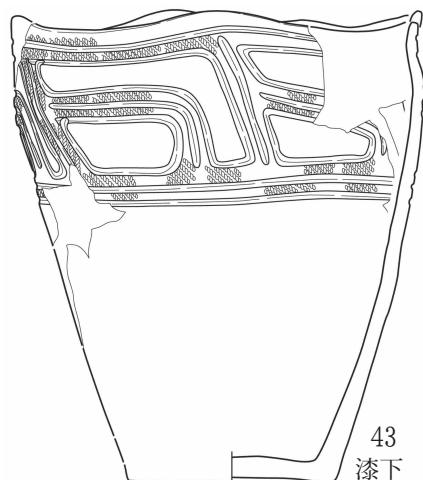
漆下  
40



漆下  
41

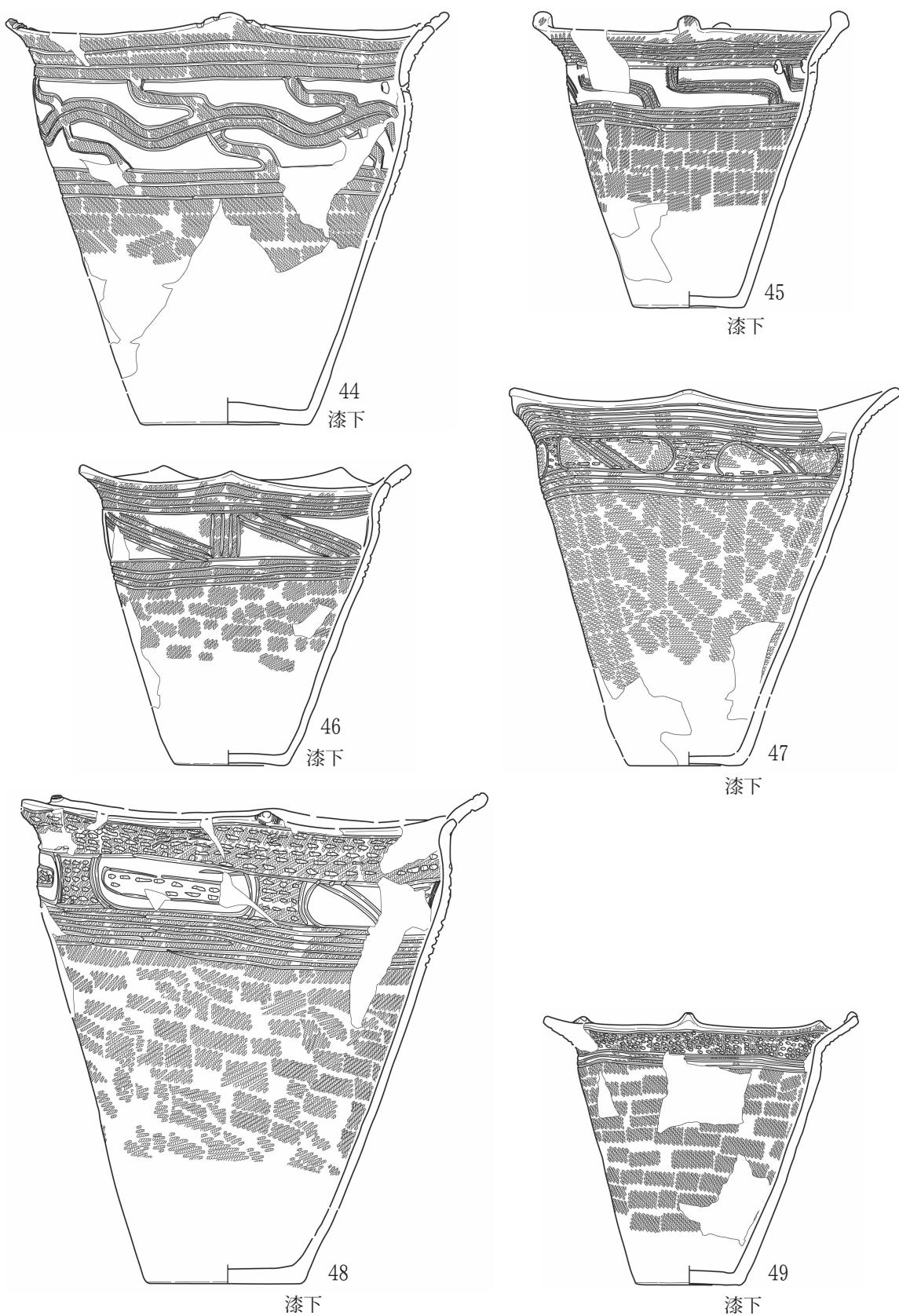


漆下  
42

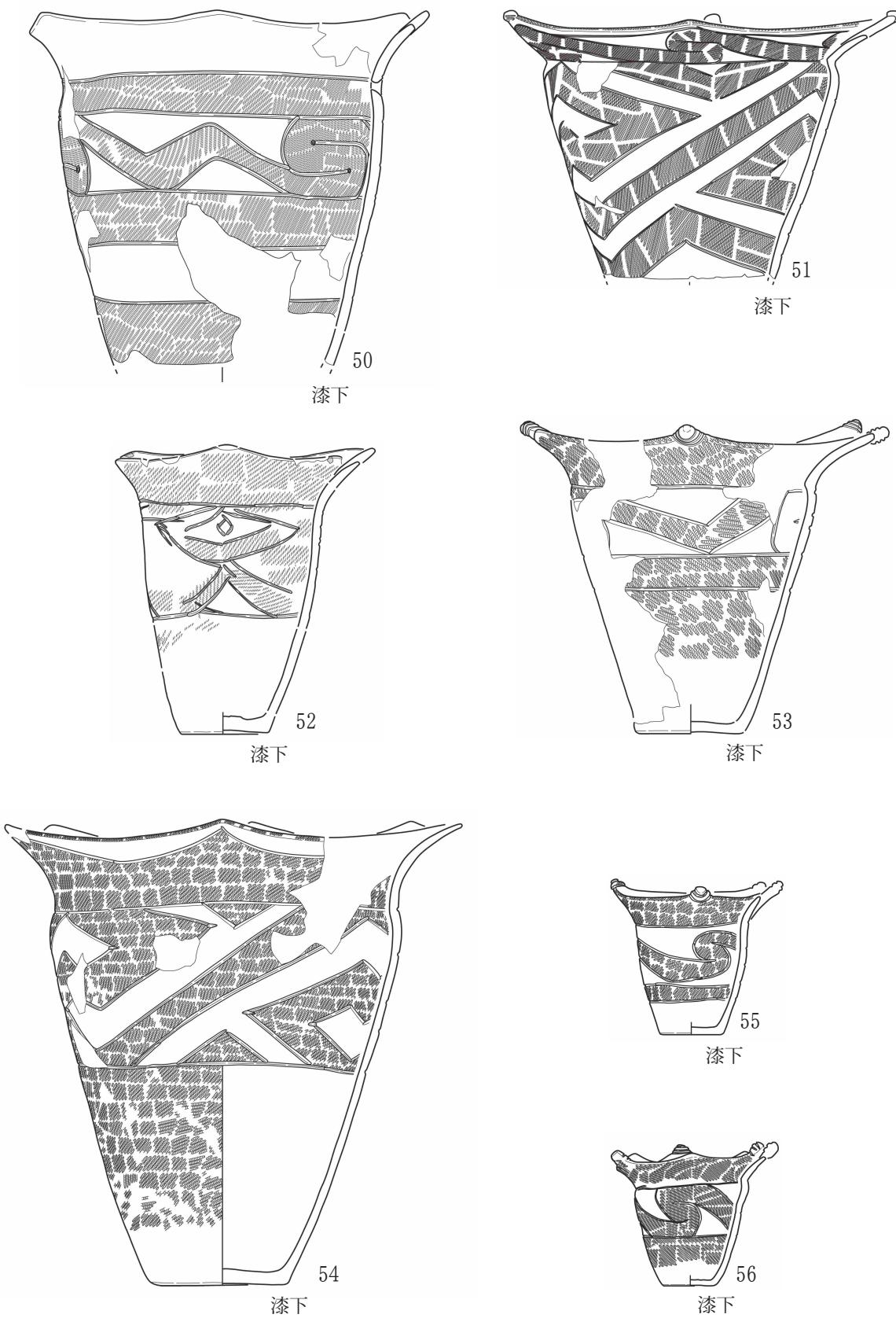


漆下  
43

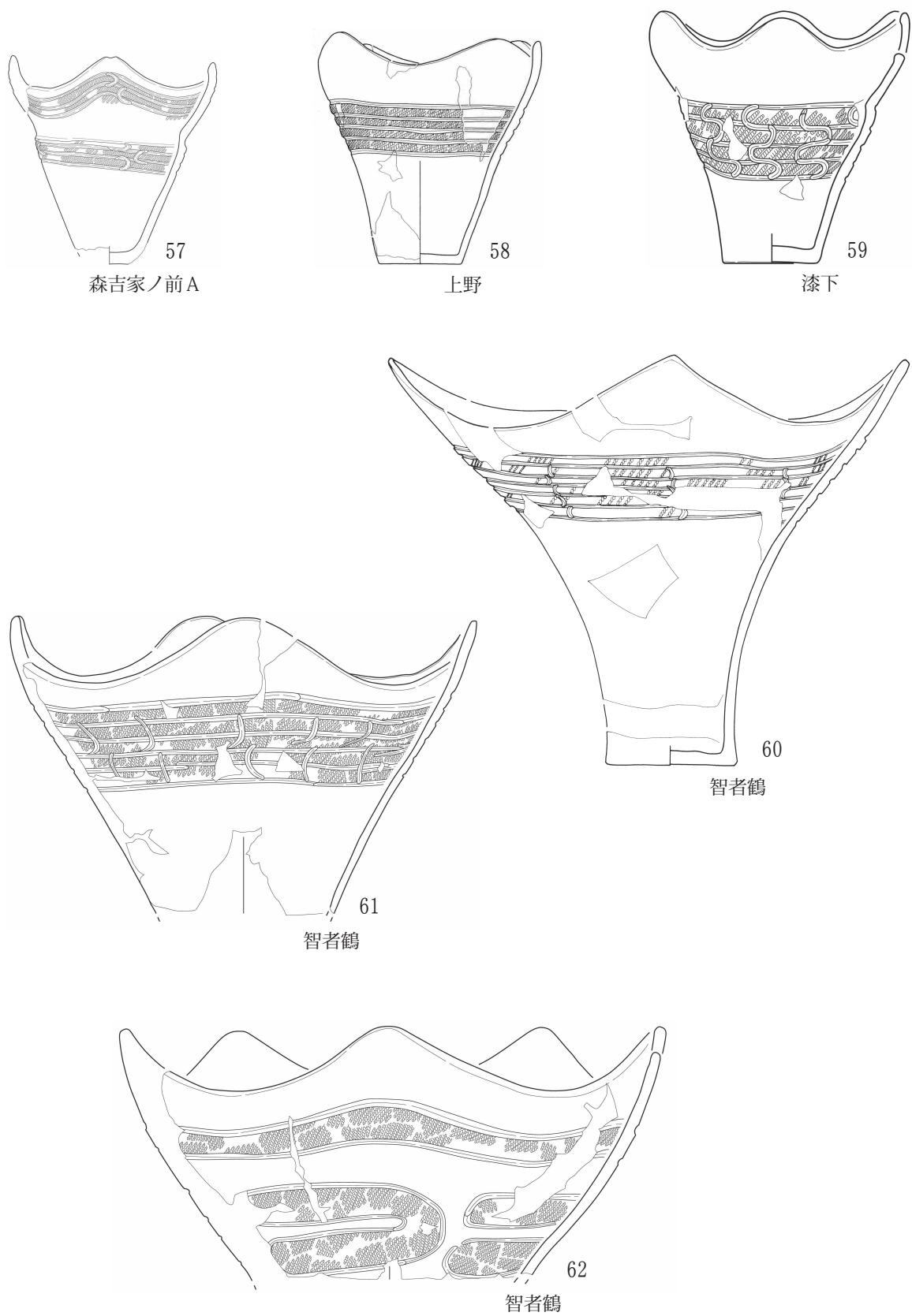
第8図 深鉢形土器8



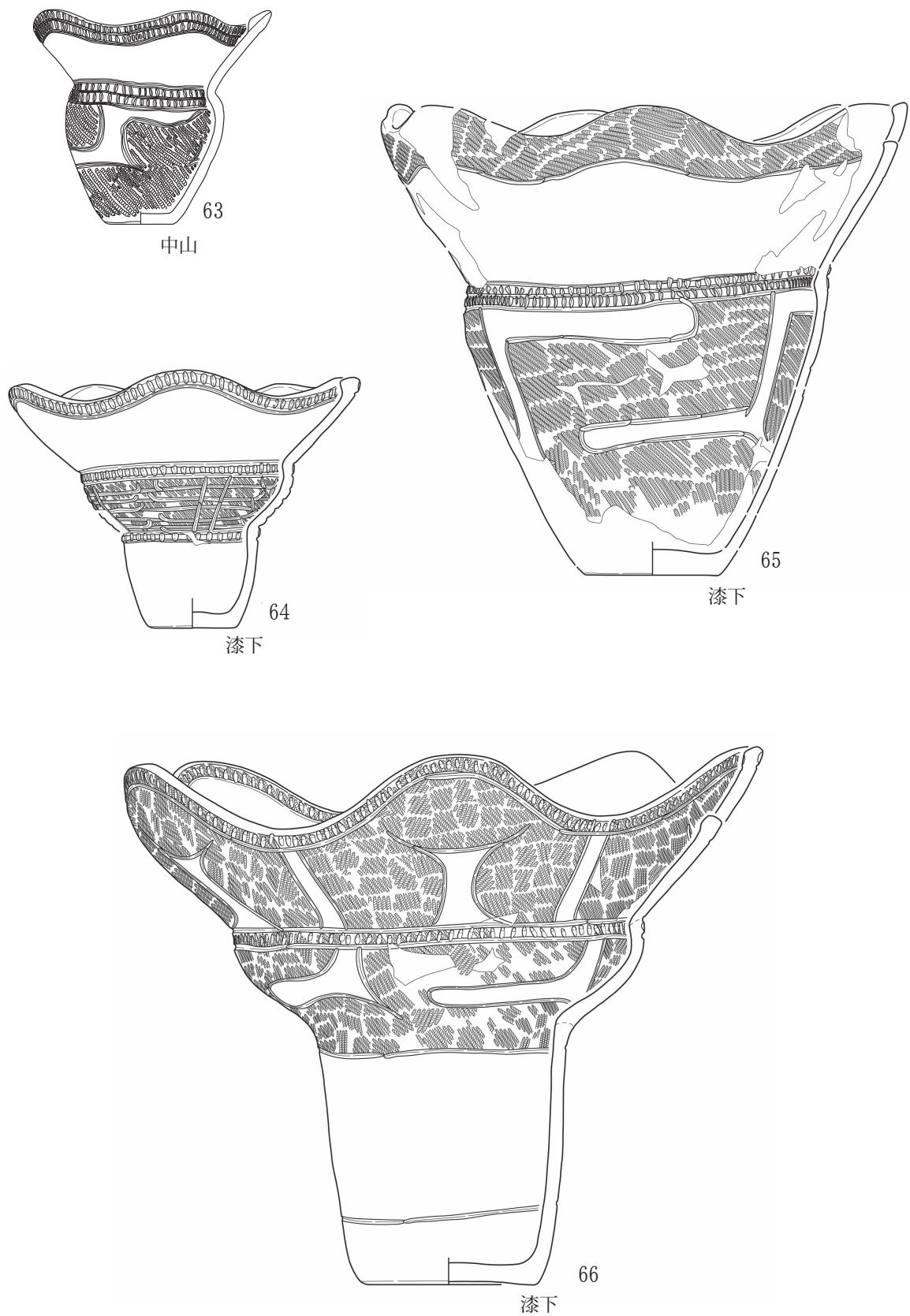
第9図 深鉢形土器 9



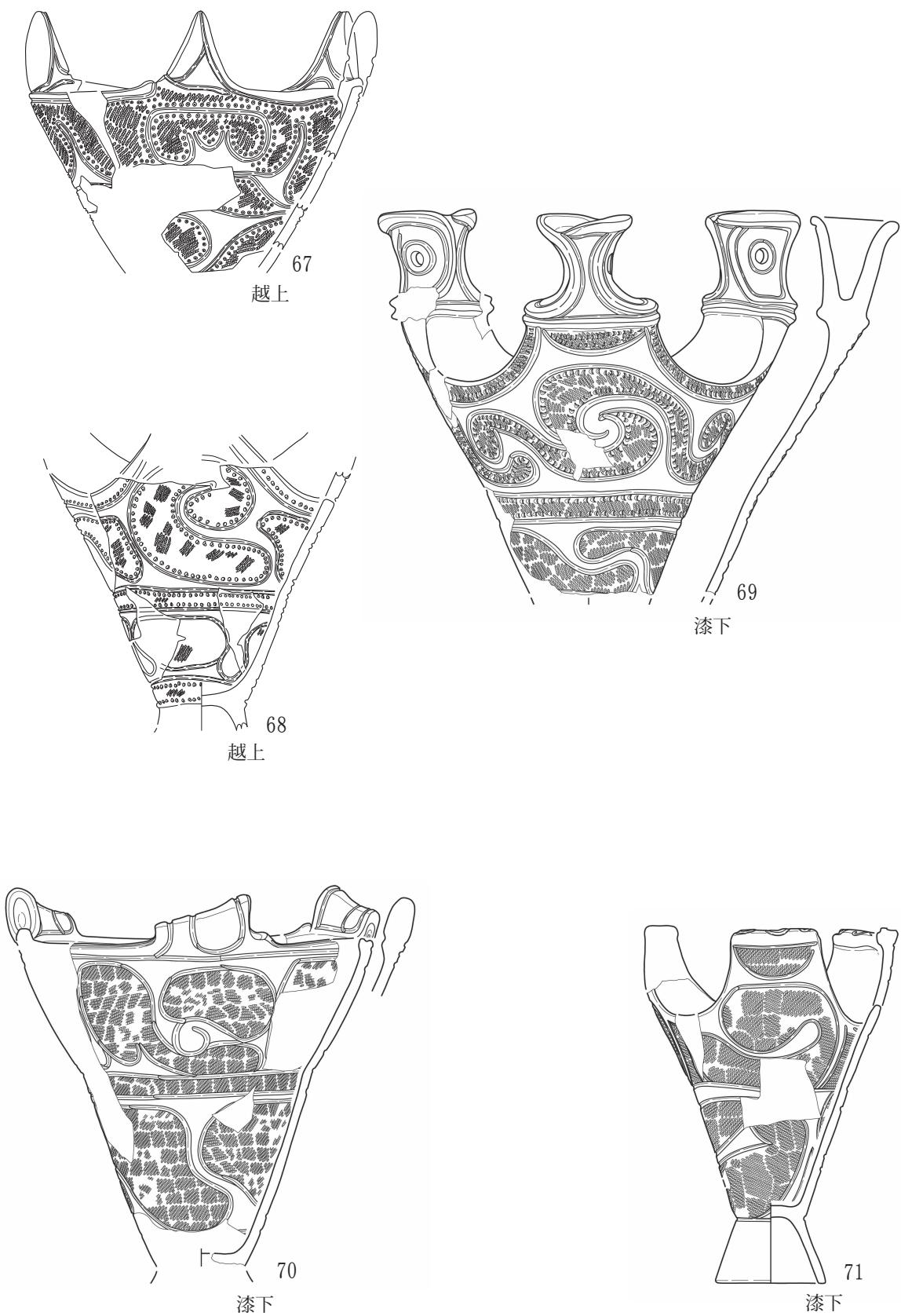
第10図 深鉢形土器10



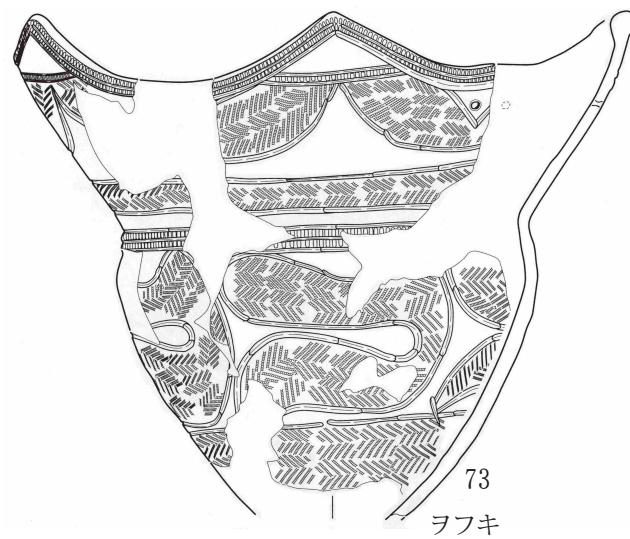
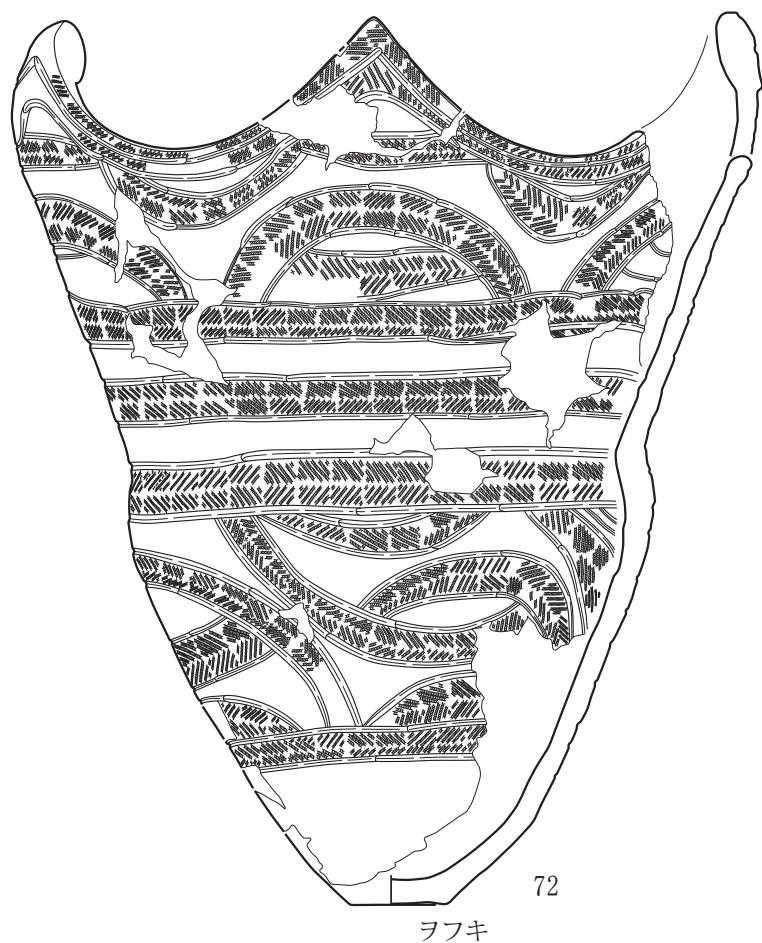
第11図 深鉢形土器11



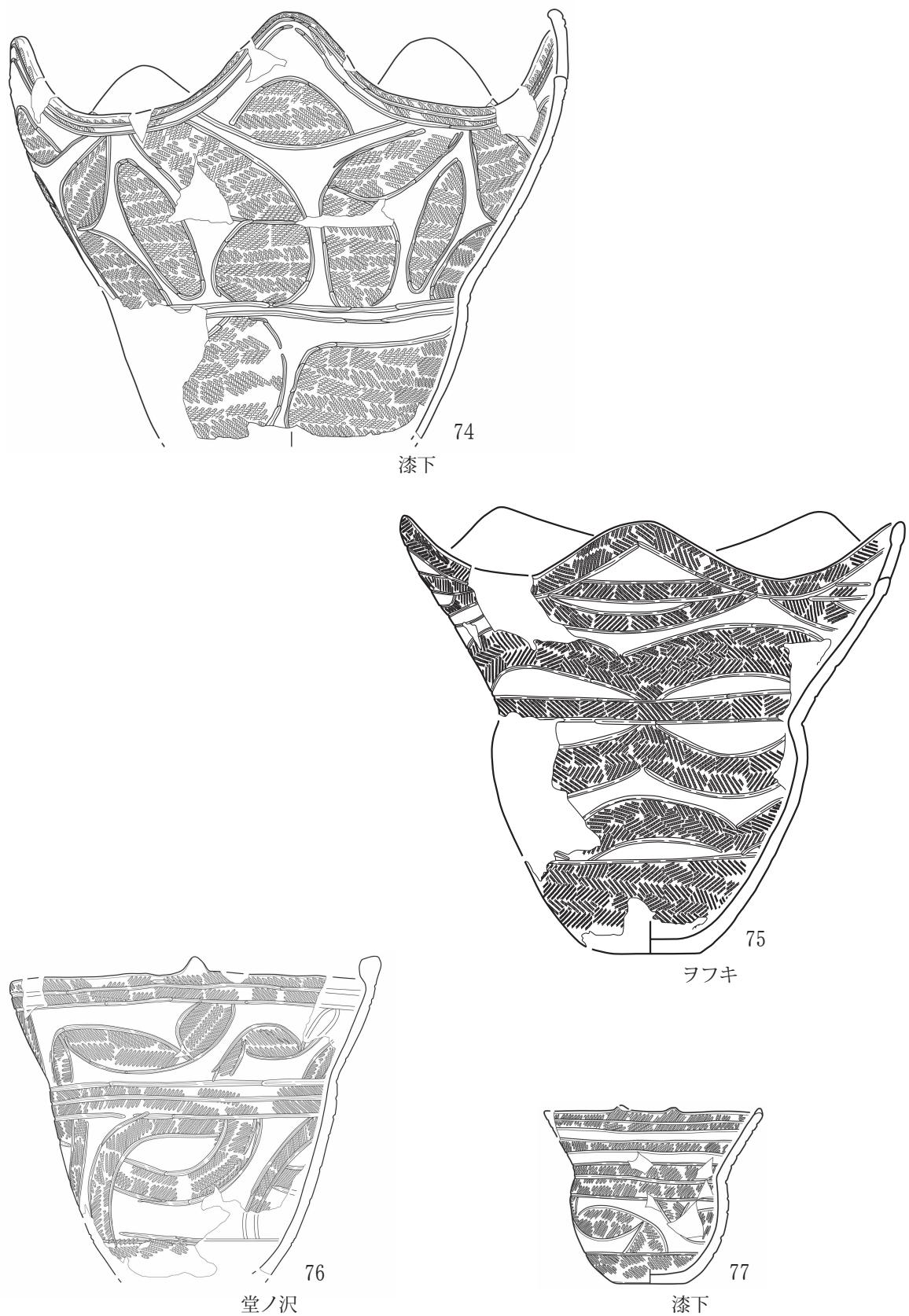
第12図 深鉢形土器12



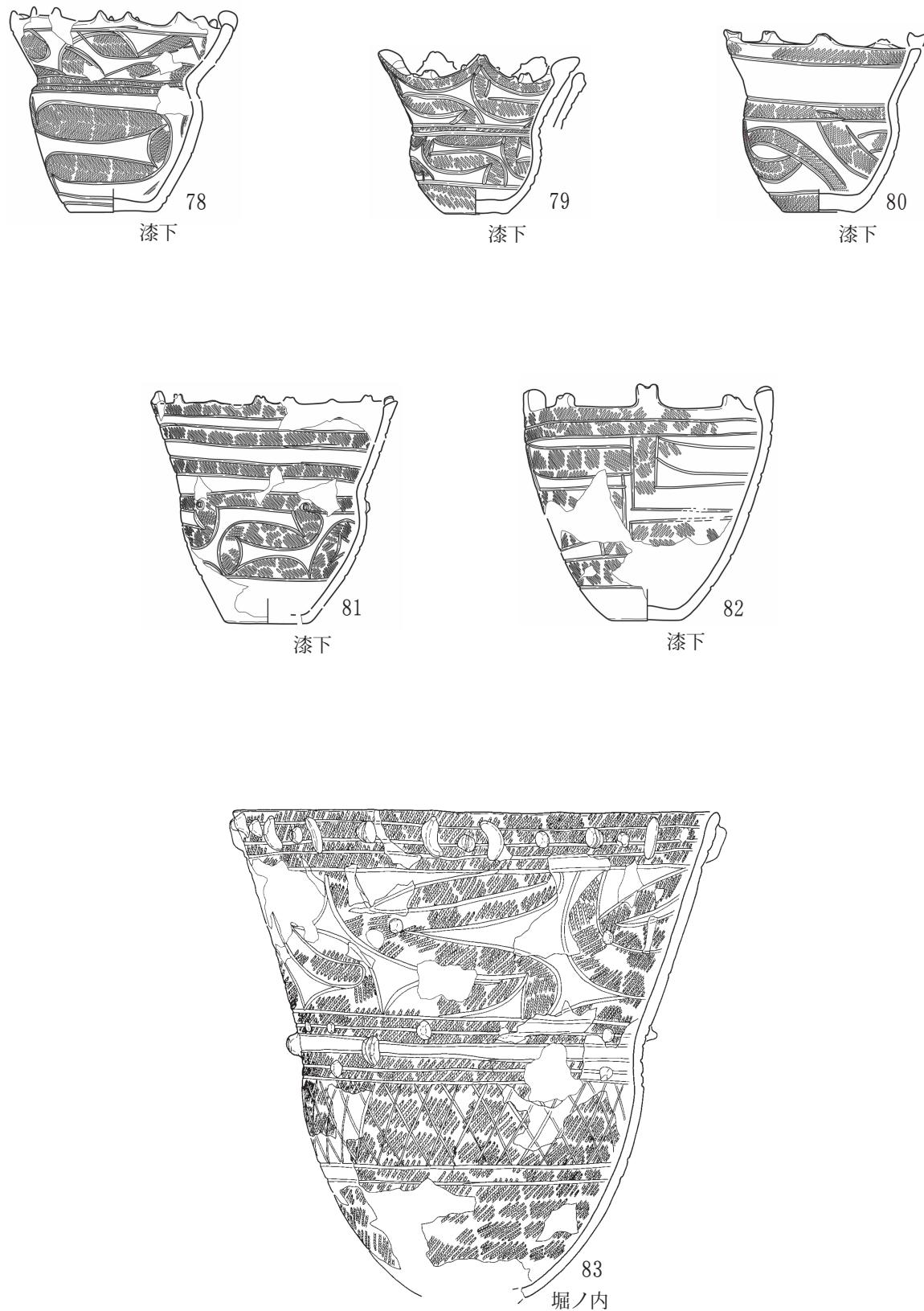
第13図 深鉢形土器13



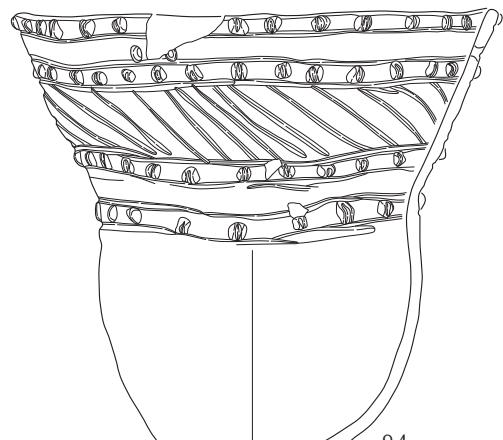
第14図 深鉢形土器14



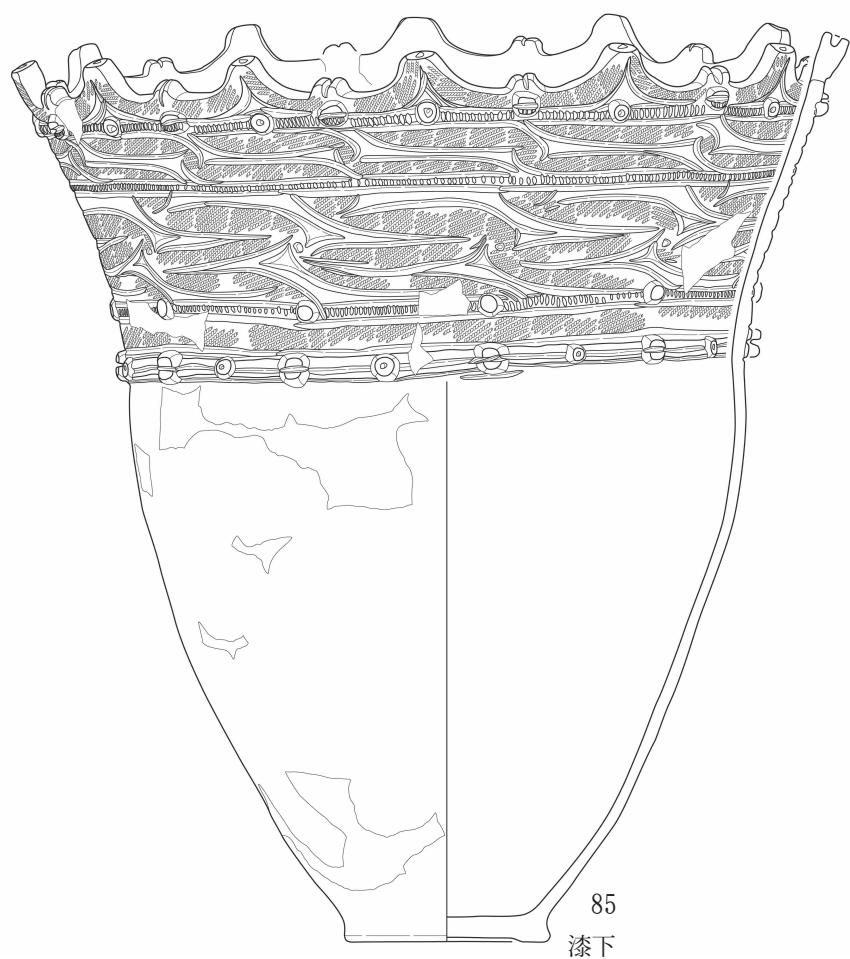
第15図 深鉢形土器15



第16図 深鉢形土器16

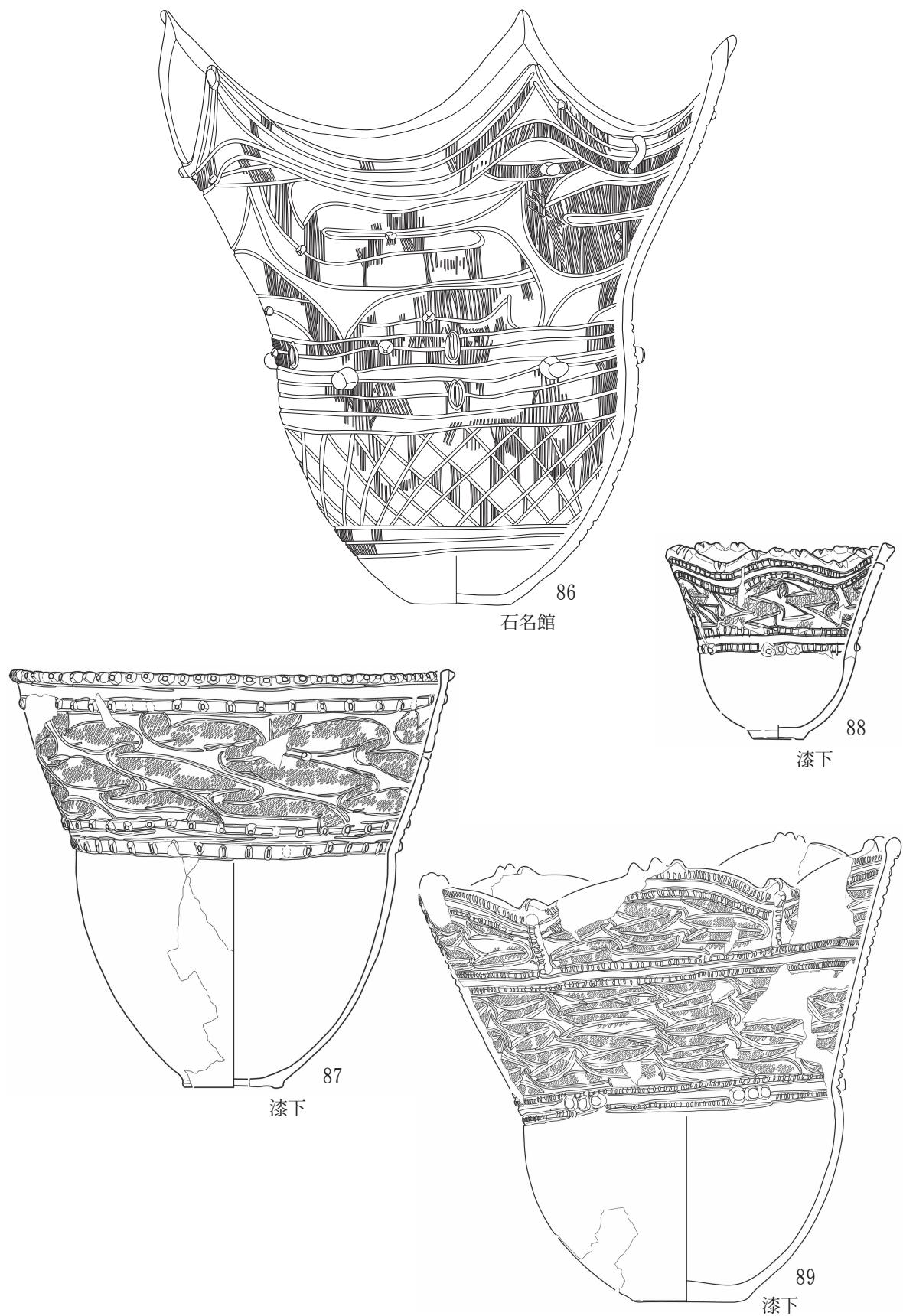


菖蒲崎

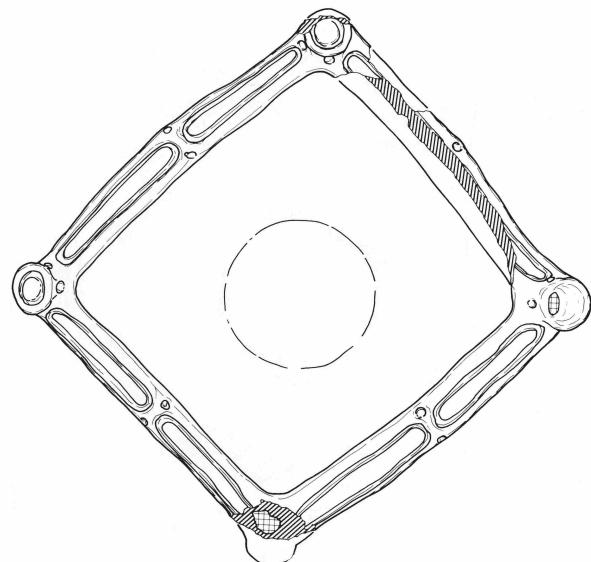
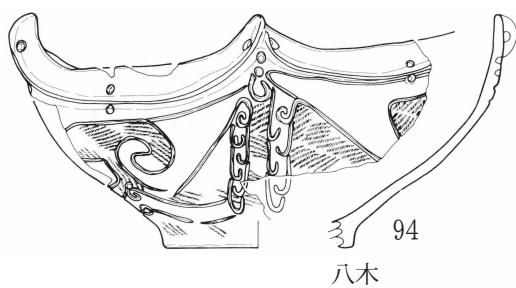
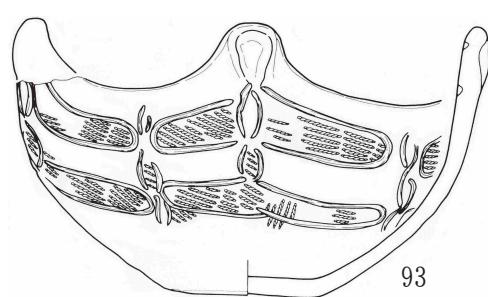
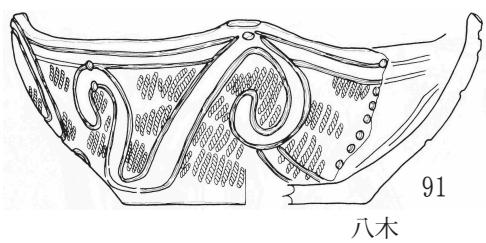
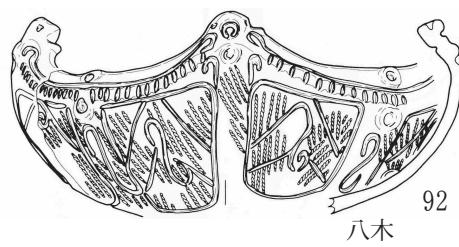
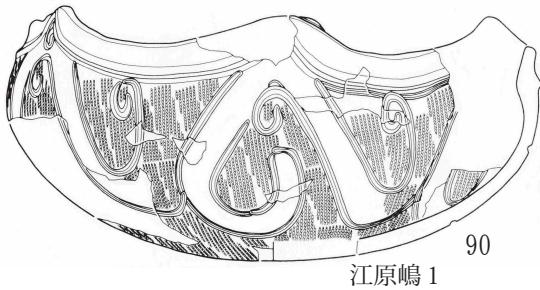


漆下

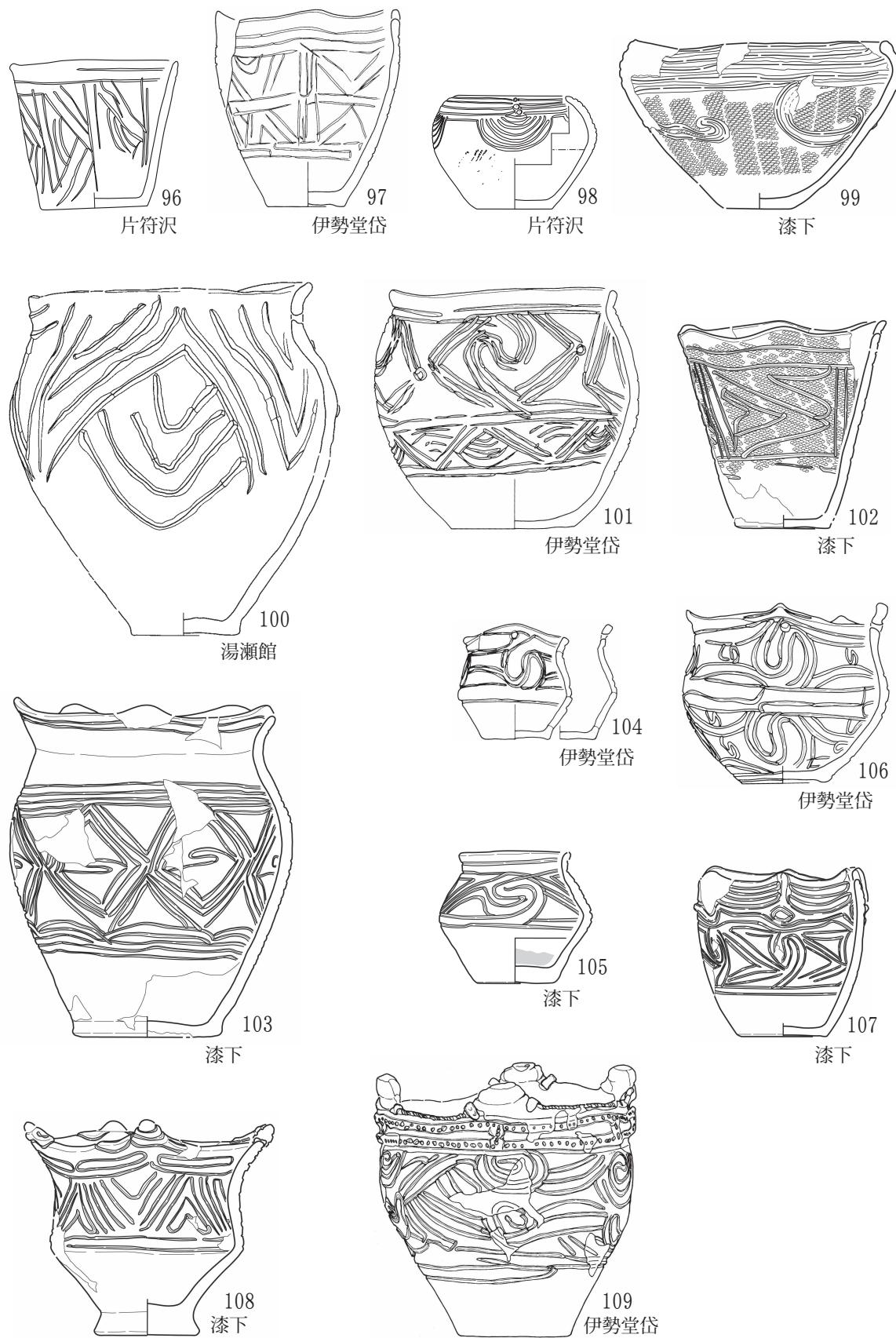
第17図 深鉢形土器17



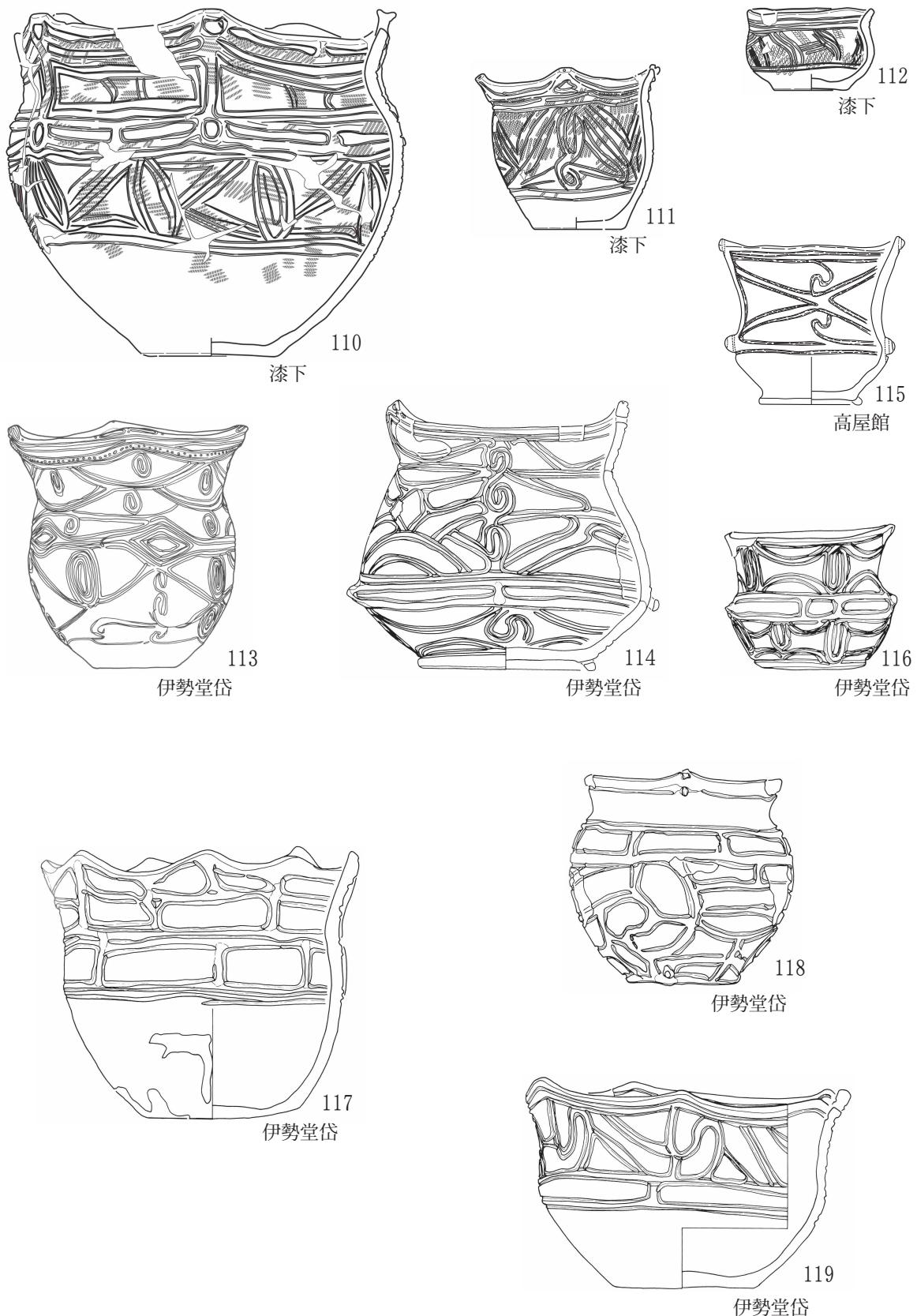
第18図 深鉢形土器18



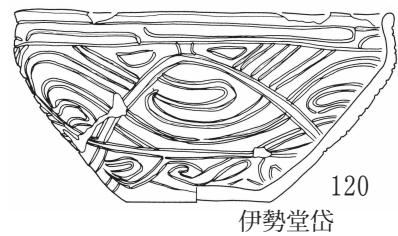
第19図 鉢形土器 1



第20図 鉢形土器 2

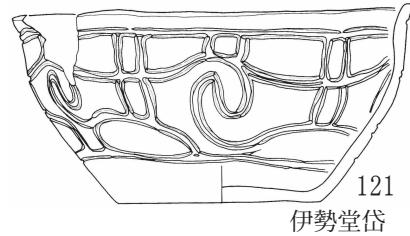


第21図 鉢形土器 3



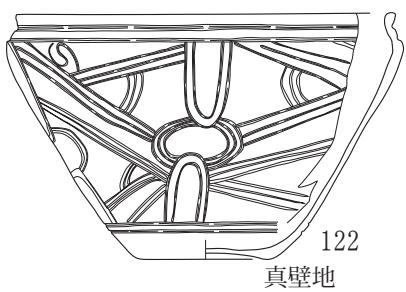
120

伊勢堂岱



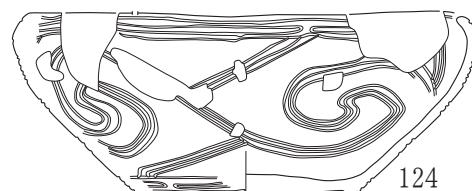
121

伊勢堂岱



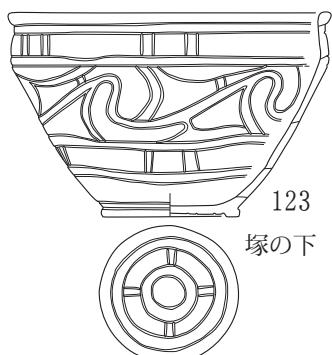
122

真壁地



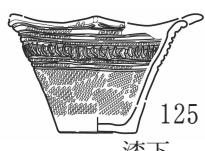
124

萩峠



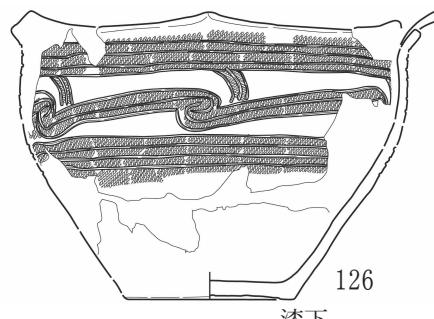
123

塚の下



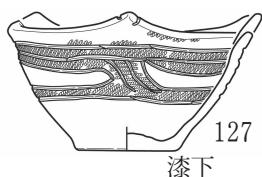
125

漆下



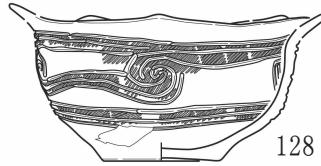
126

漆下



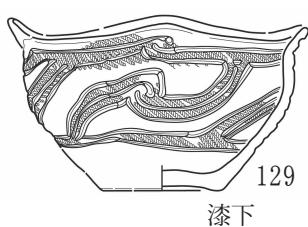
127

漆下



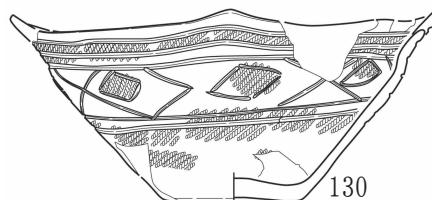
128

漆下



129

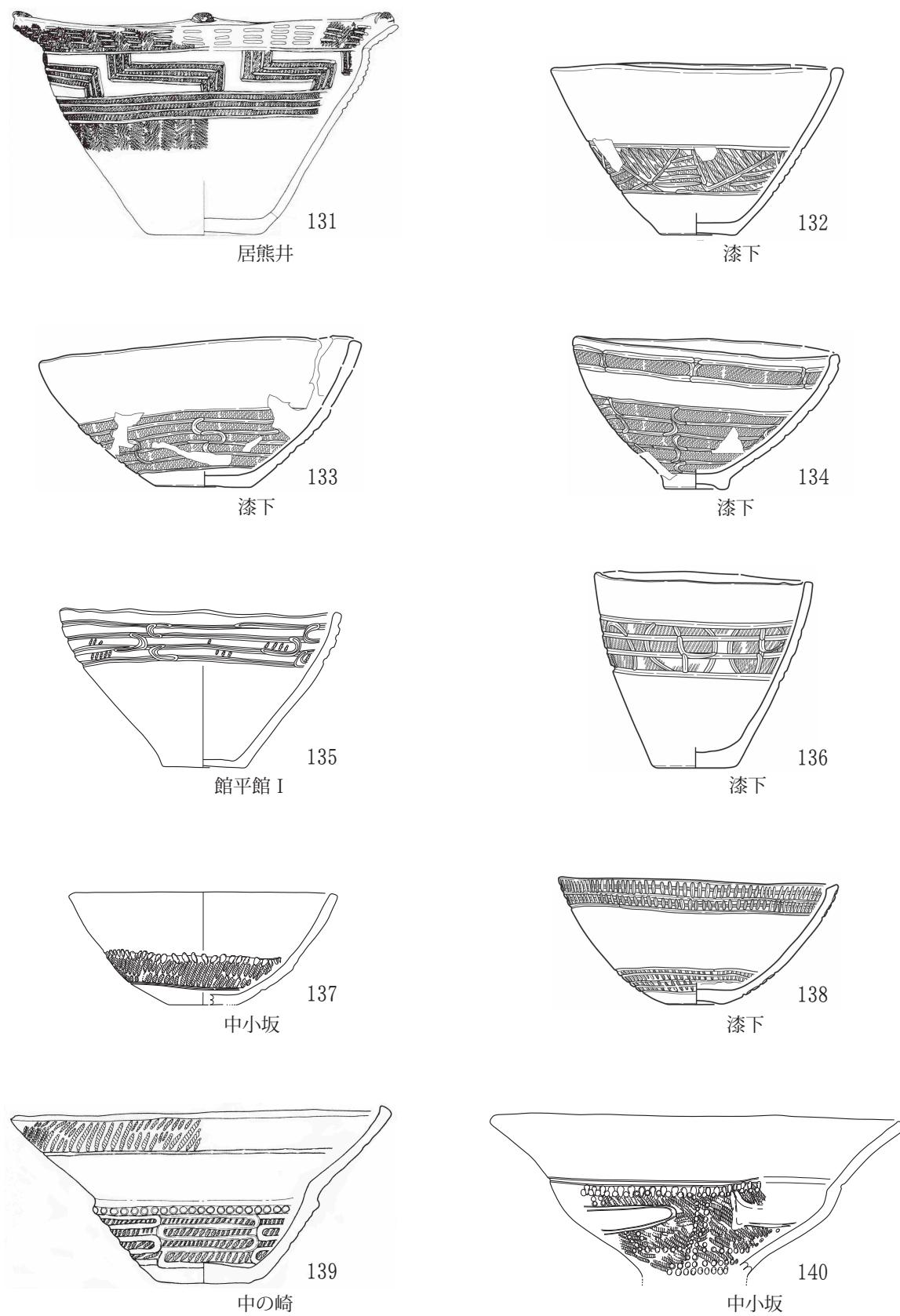
漆下



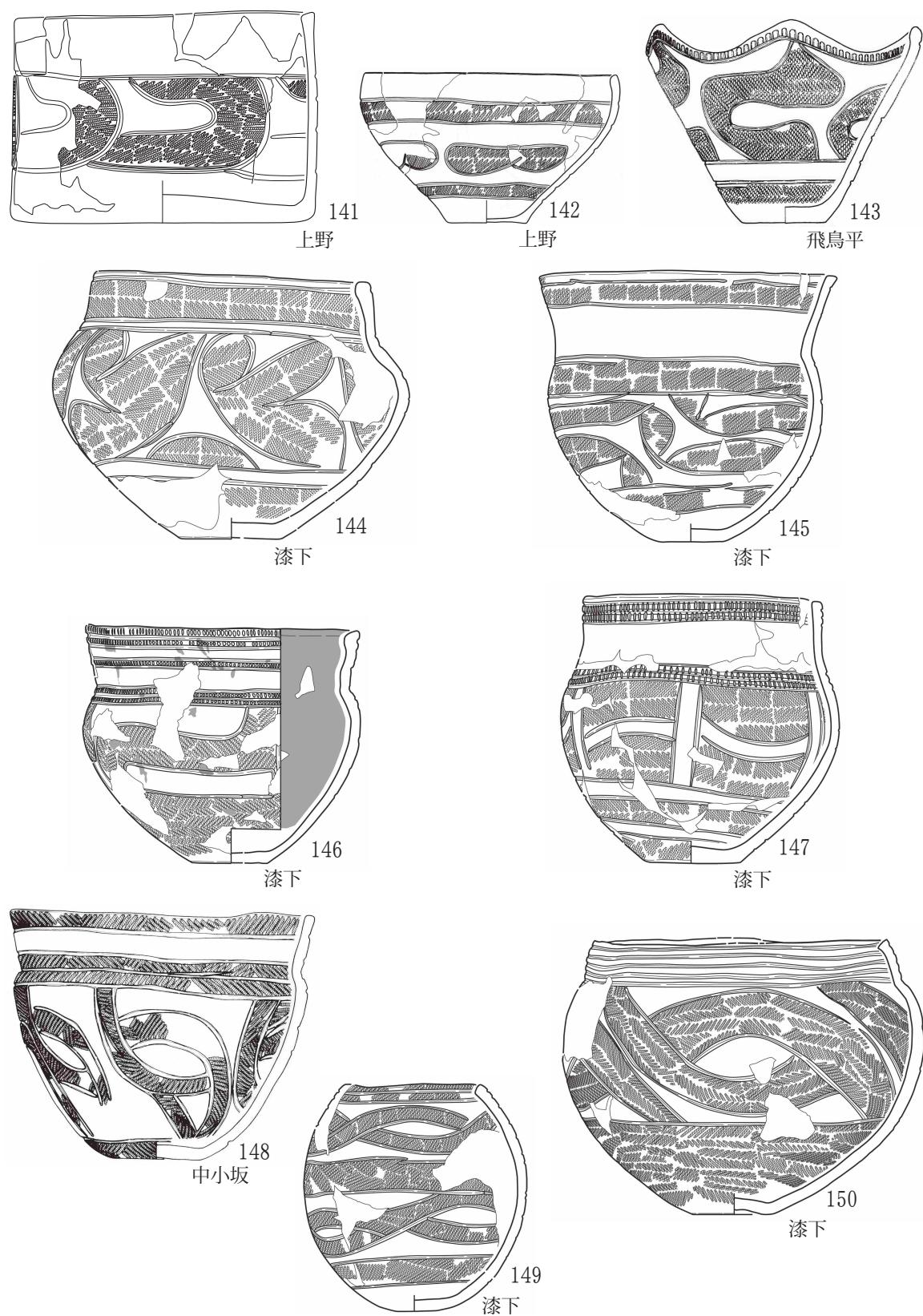
130

漆下

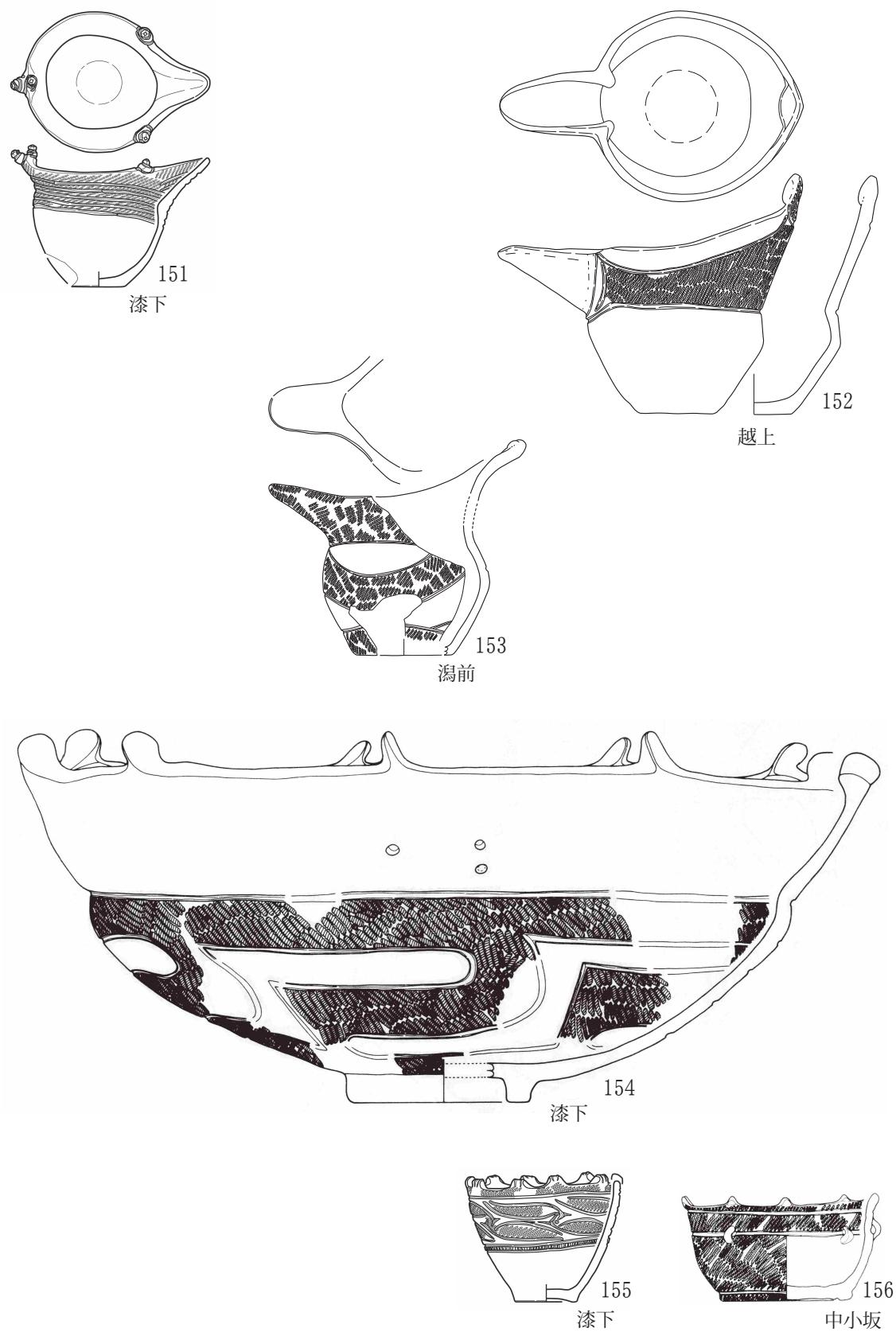
第22図 鉢形土器 4



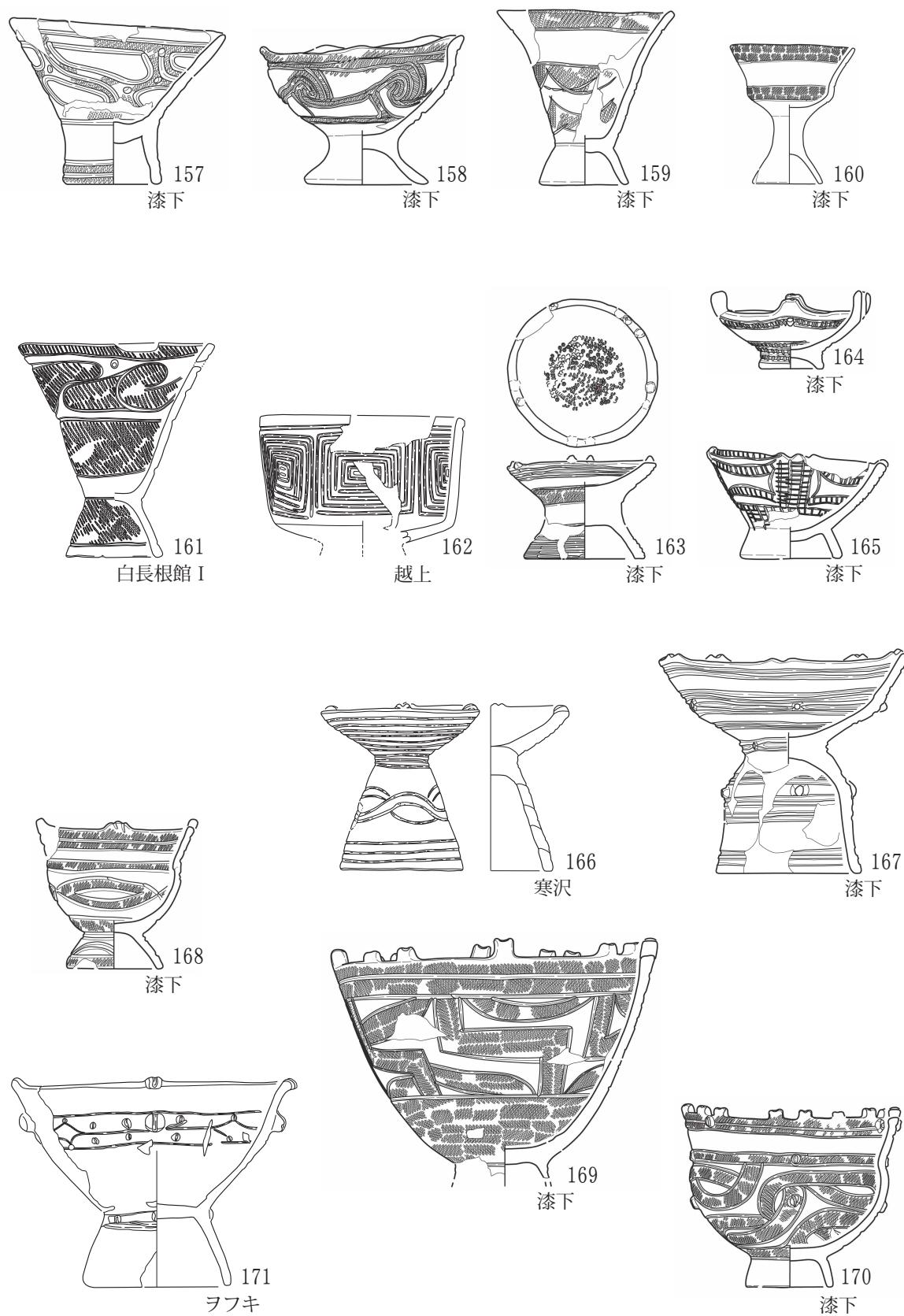
第23図 鉢形土器 5



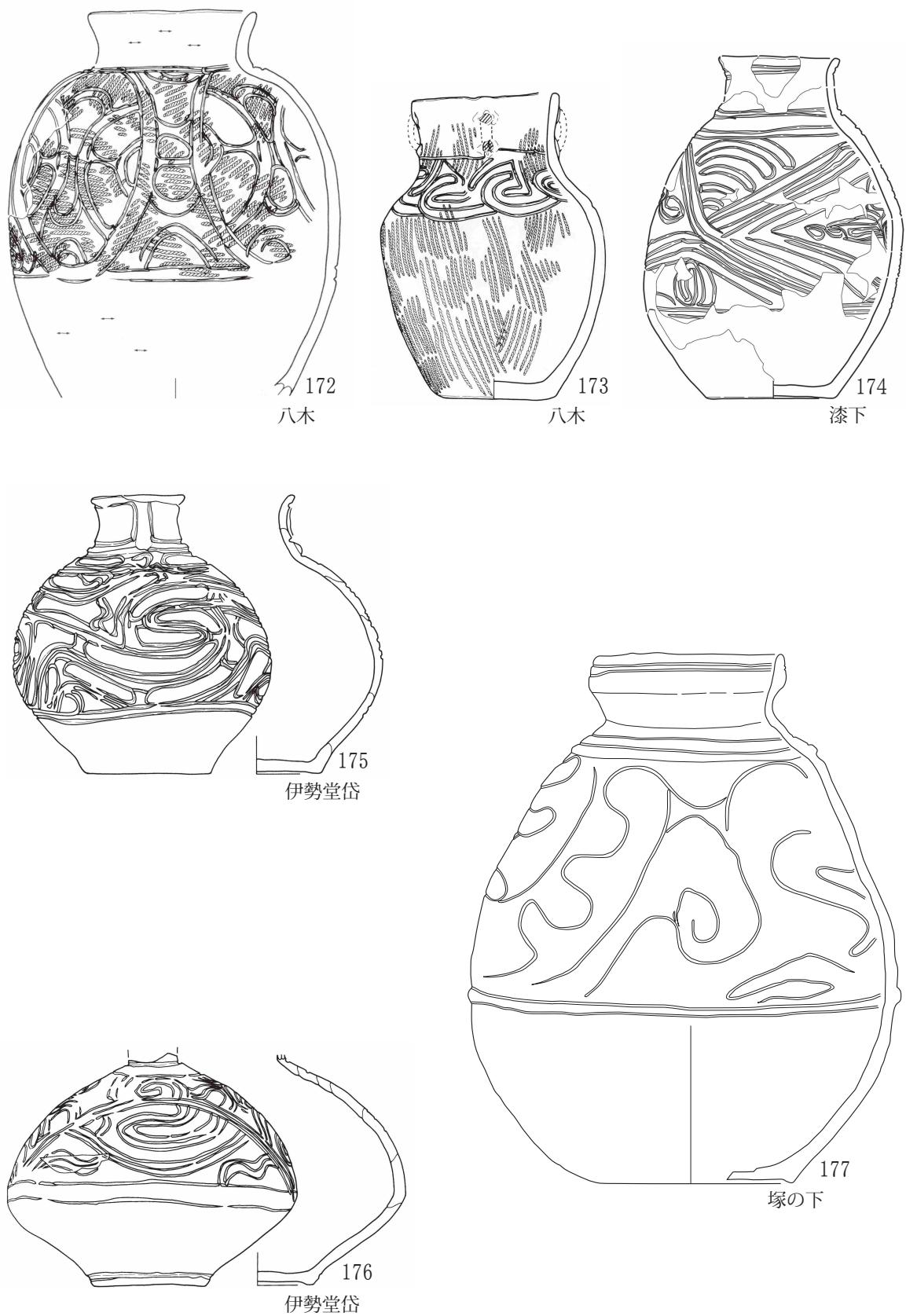
第24図 鉢形土器 6



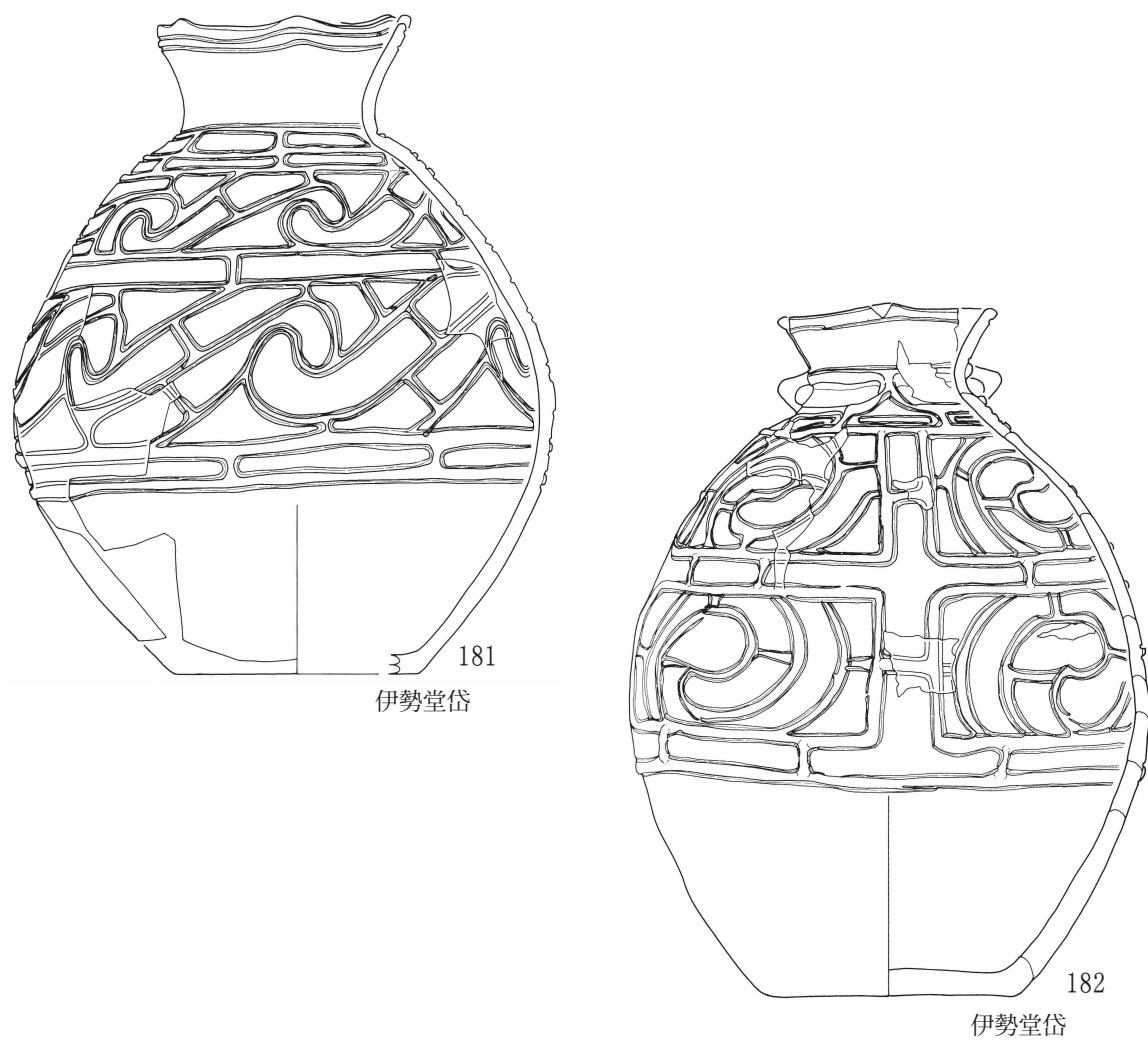
第25図 鉢形土器 7



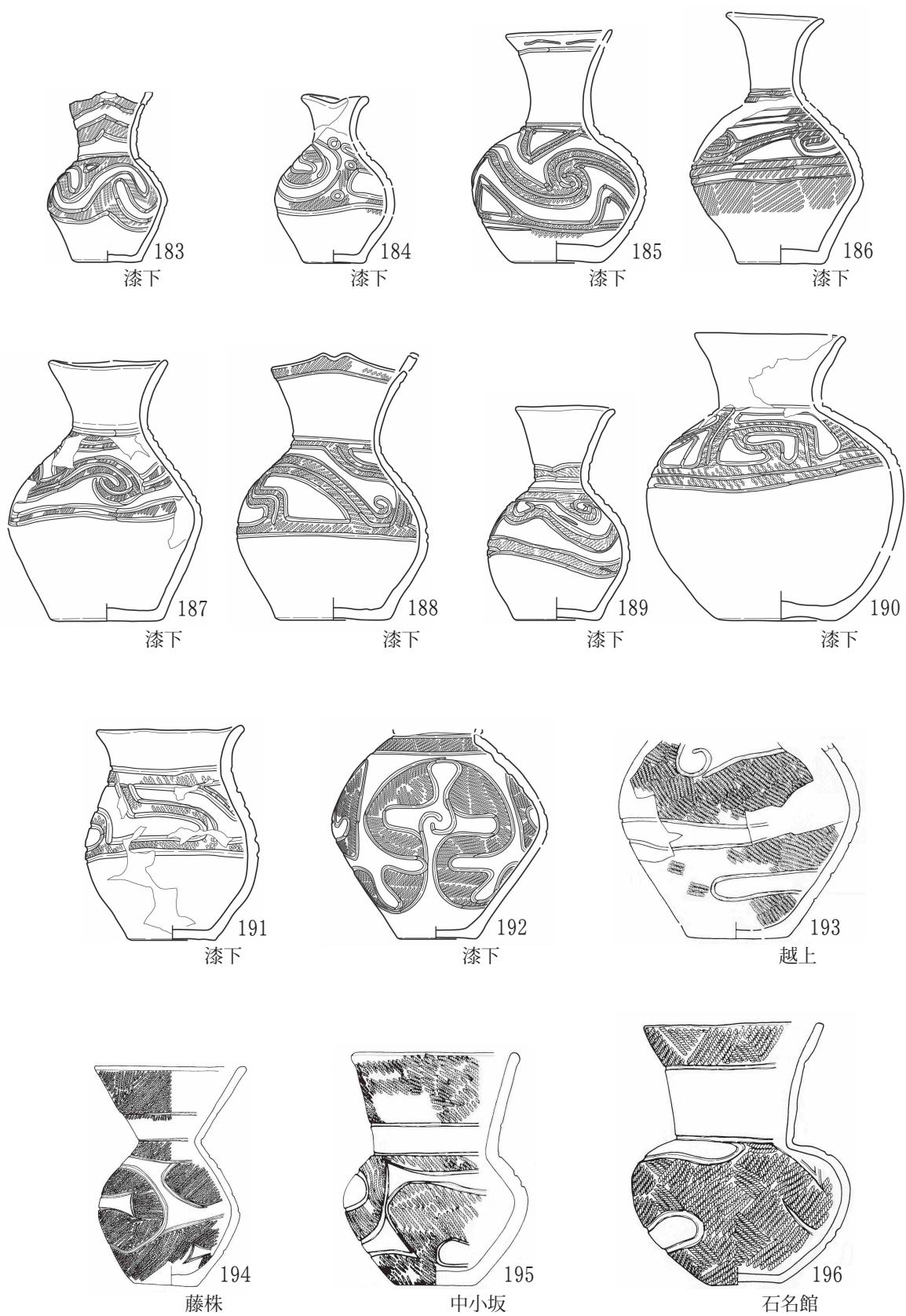
第26図 台付鉢形土器 1



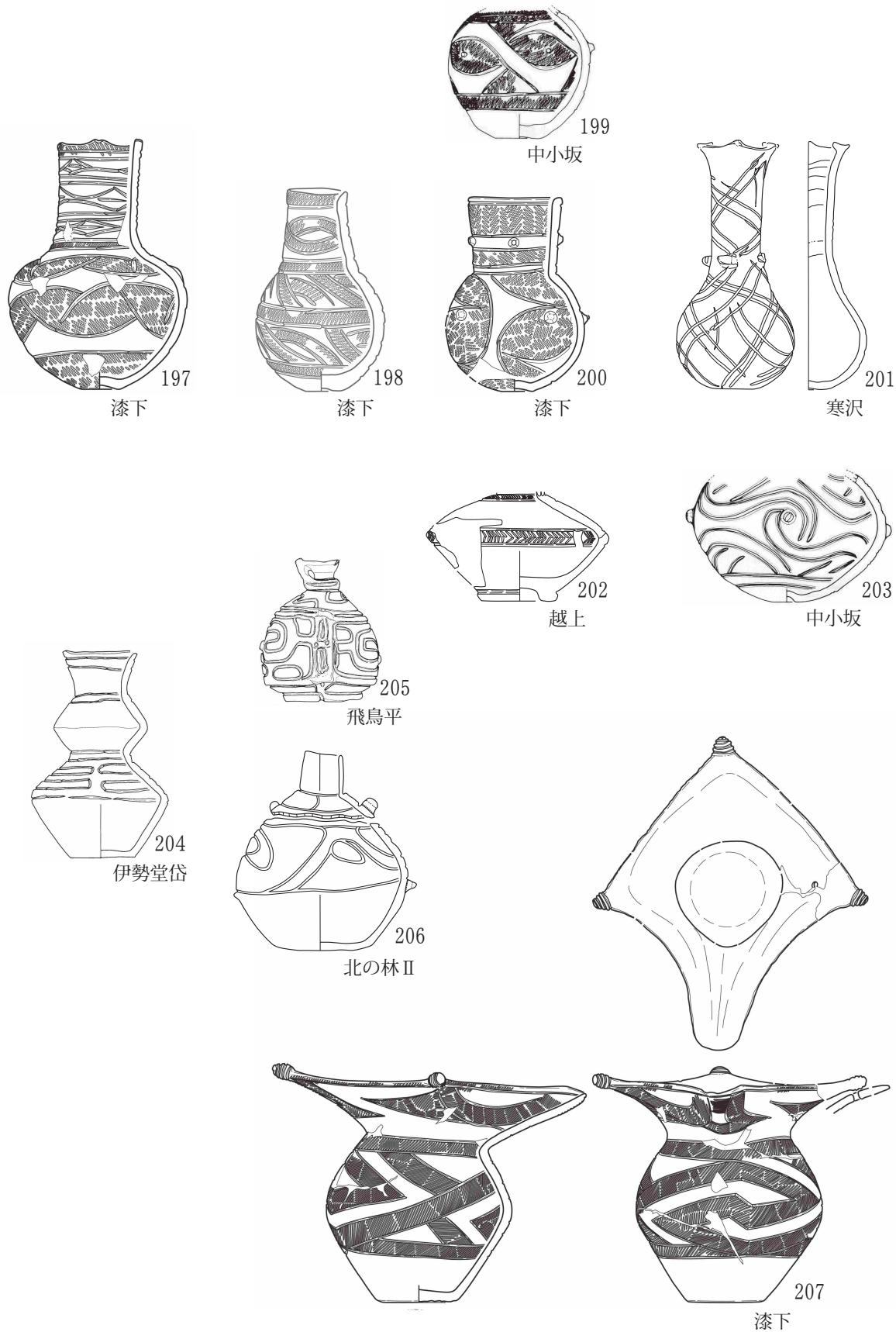
第27図 壺形土器 1



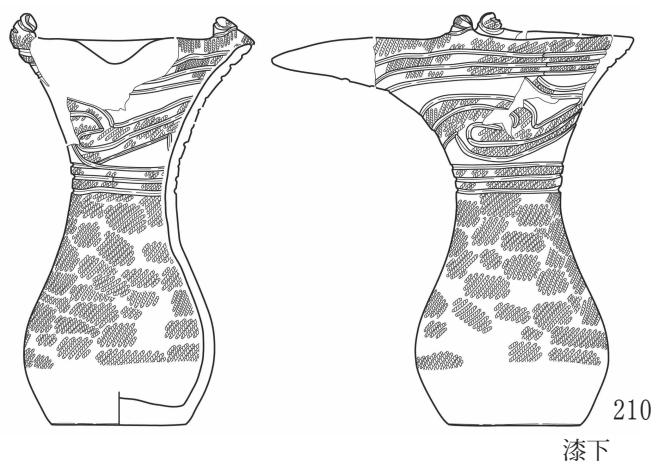
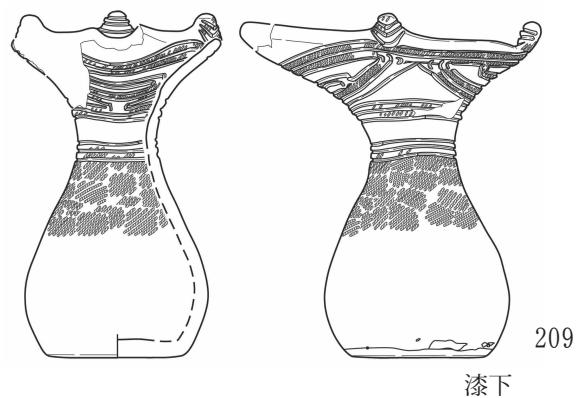
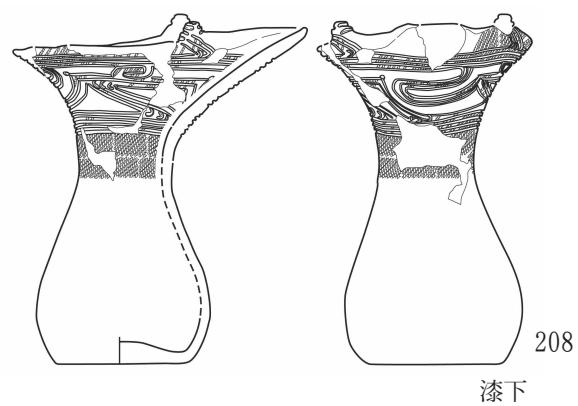
第28図 壺形土器 2



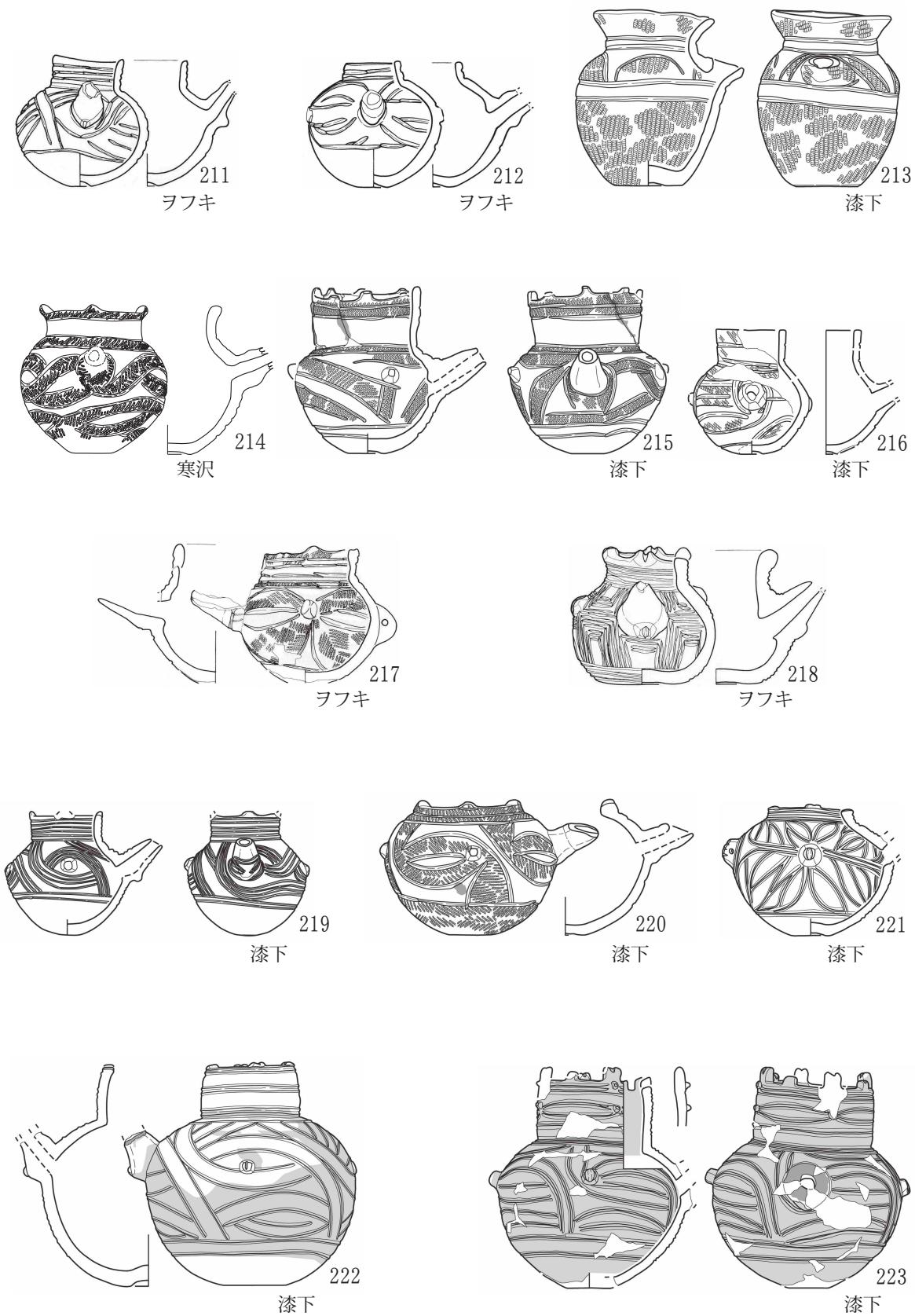
第29図 壺形土器 3



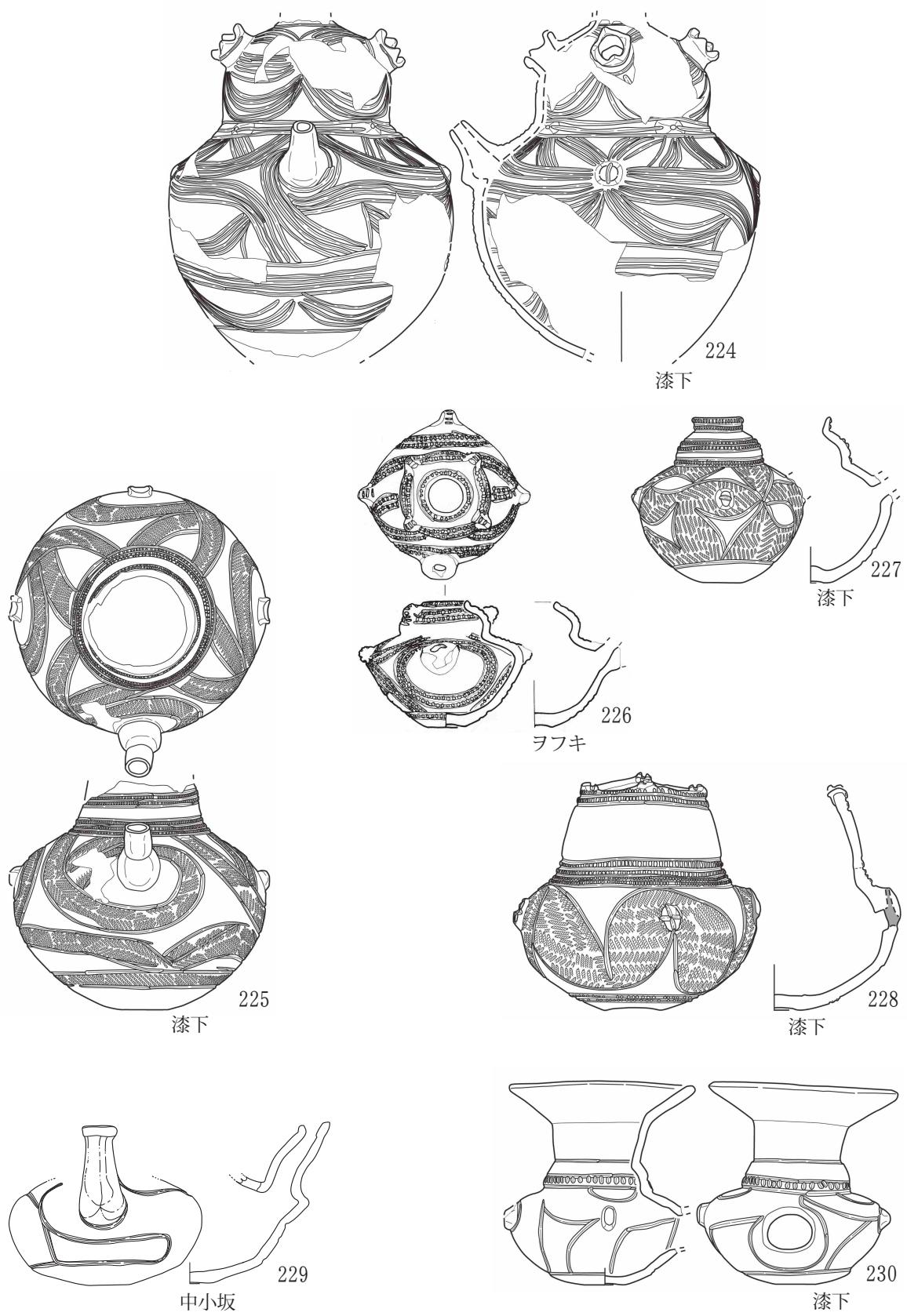
第30図 壺形土器 4



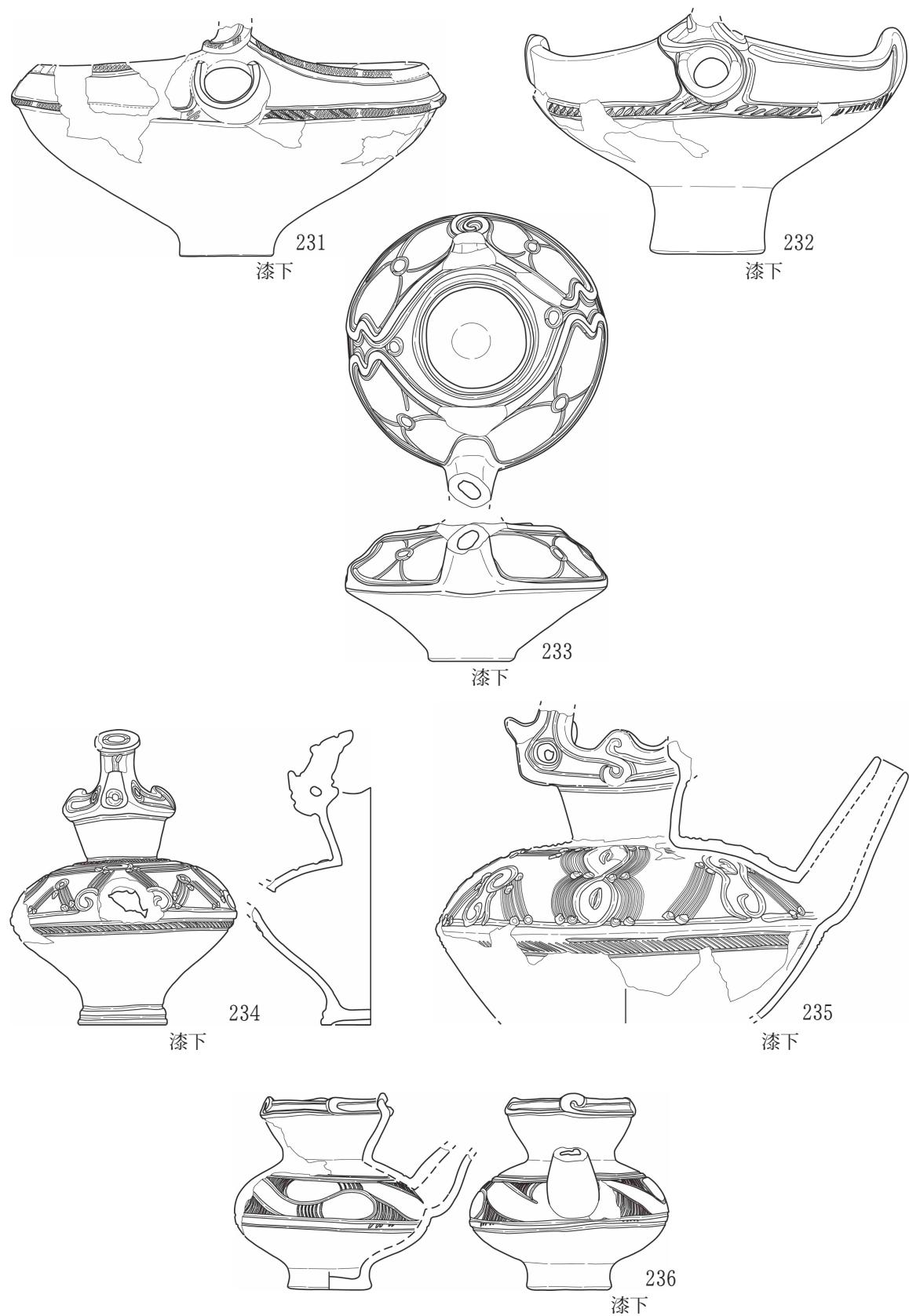
第31図 壺形土器 5



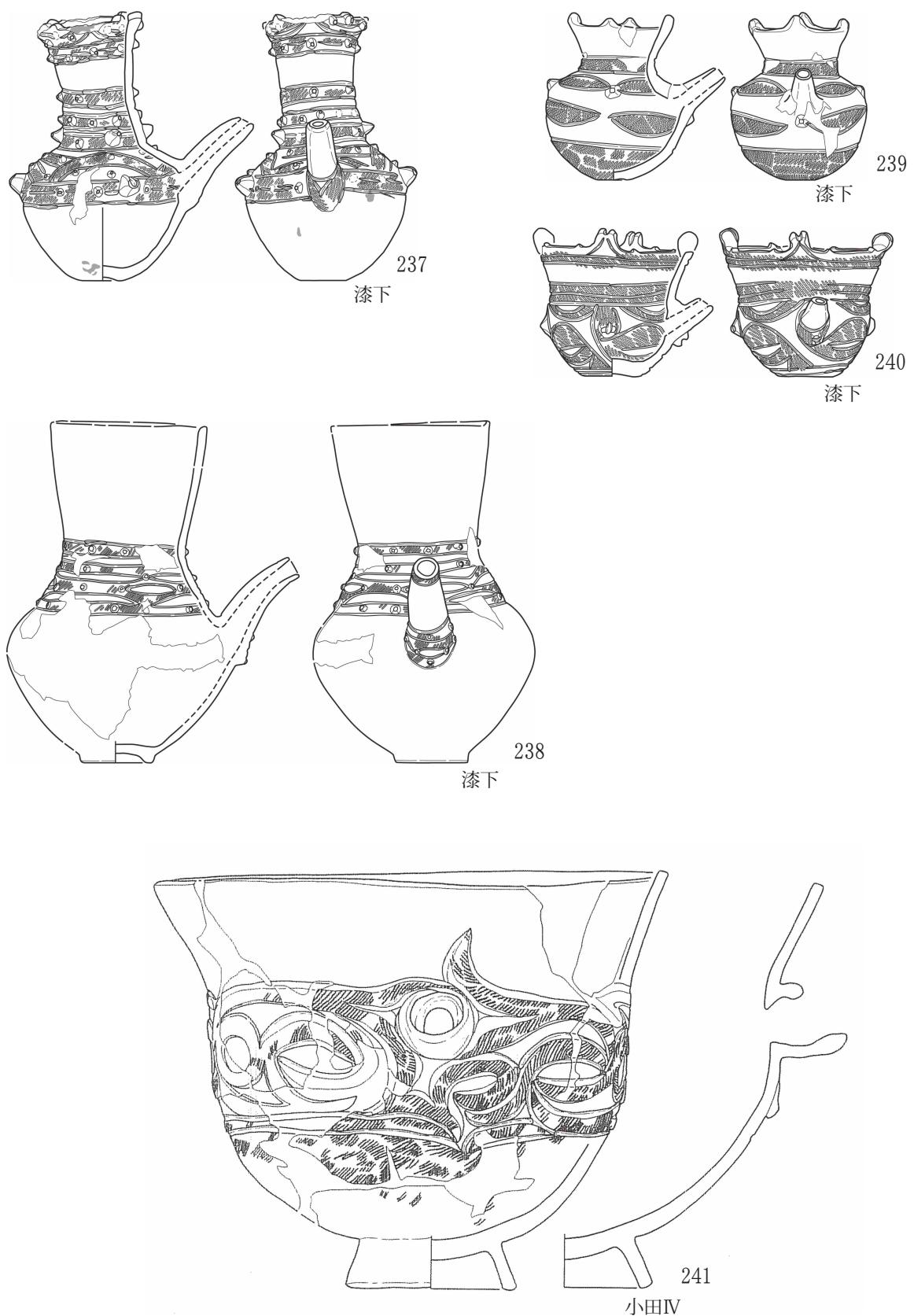
第32図 注口土器 1



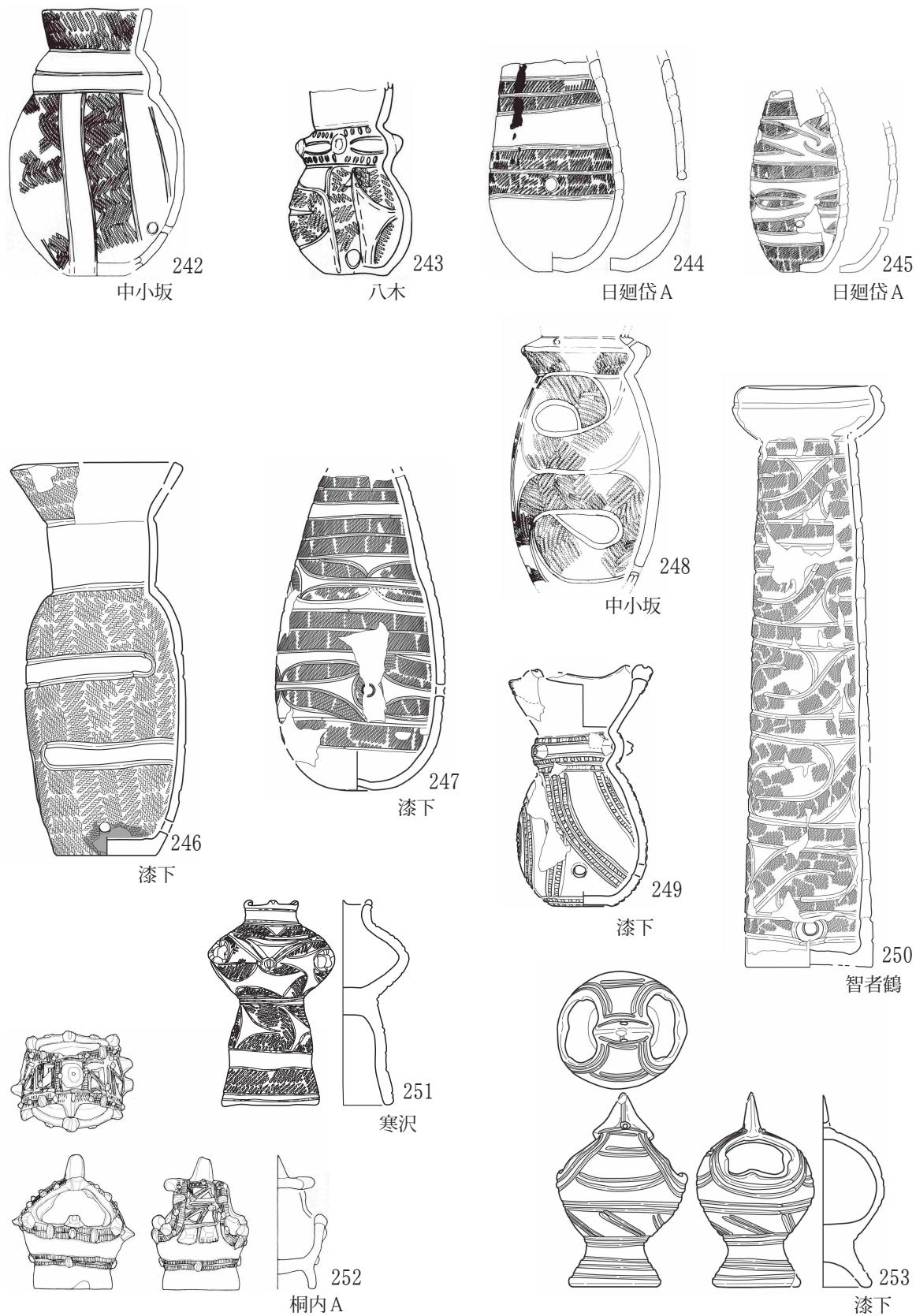
第33図 注口土器 2



第34図 注口土器 3



第35図 注口土器 4



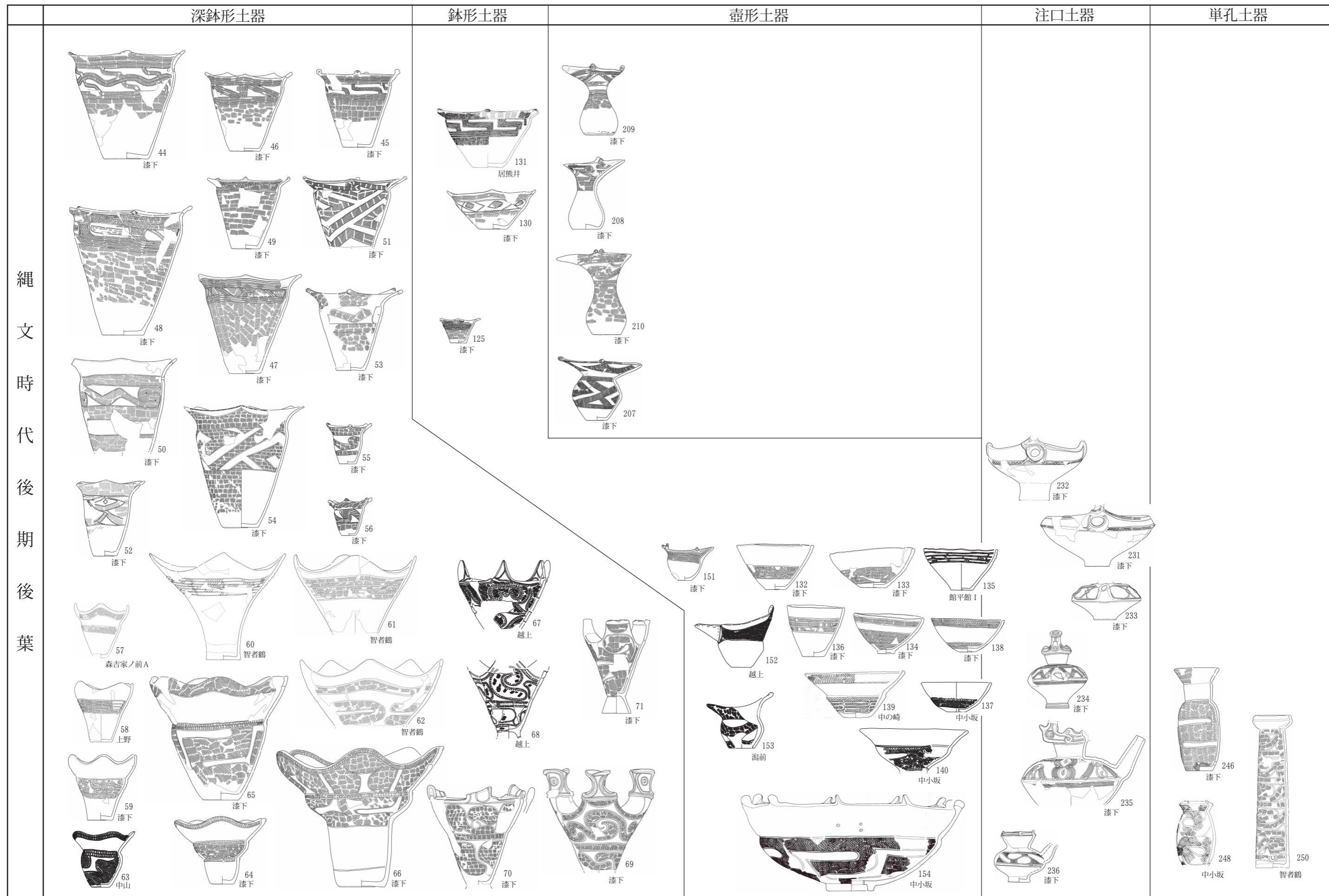
第36図 単孔土器 1・香炉形土器 1

	深鉢形土器	鉢形土器	壺形土器	
縄文時代後期前葉	<p>1 八木 2 八木 3 江原嶋 1 4 日廻岱 B 5 江原嶋 1 6 越上 7 八木 8 江原嶋 1 9 八木 10 八木 11 八木 12 石丁 13 漆下 14 伊勢堂岱 15 漆下</p>	<p>90 江原嶋 1 91 八木 92 八木 93 八木 94 八木 95 八木 98 片符沢 99 漆下 102 漆下 109 伊勢堂岱 120 伊勢堂岱</p>	<p>172 八木 173 八木 174 漆下</p>	

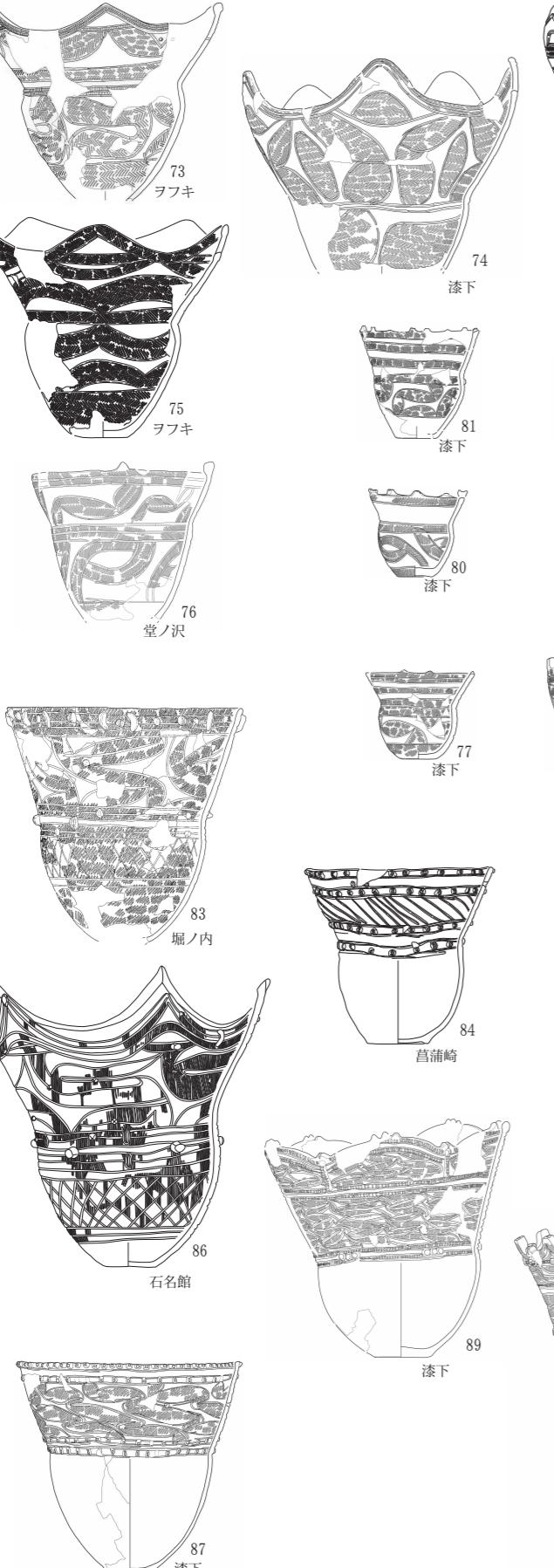
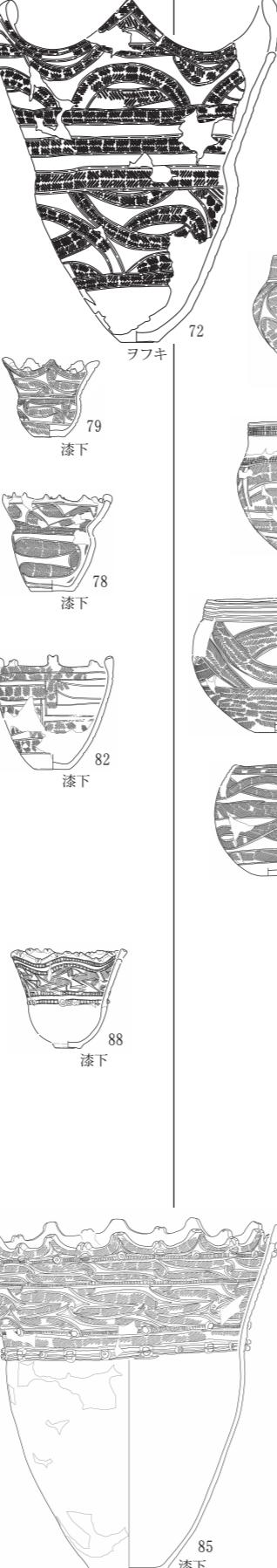
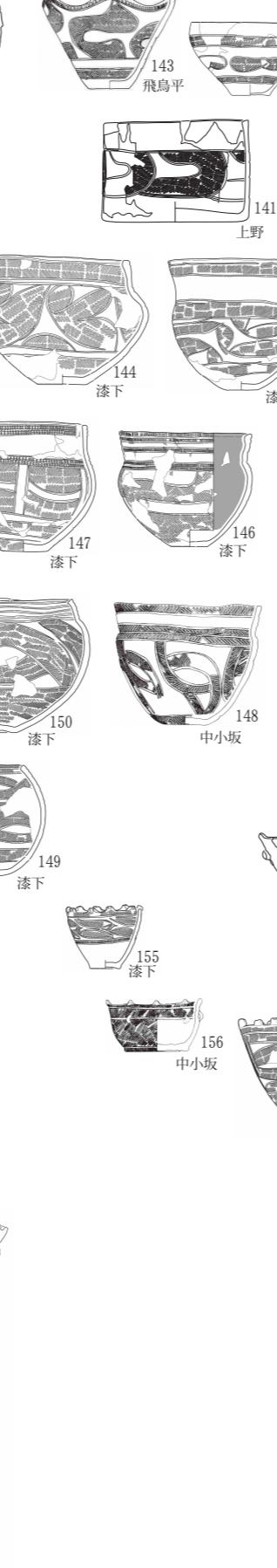
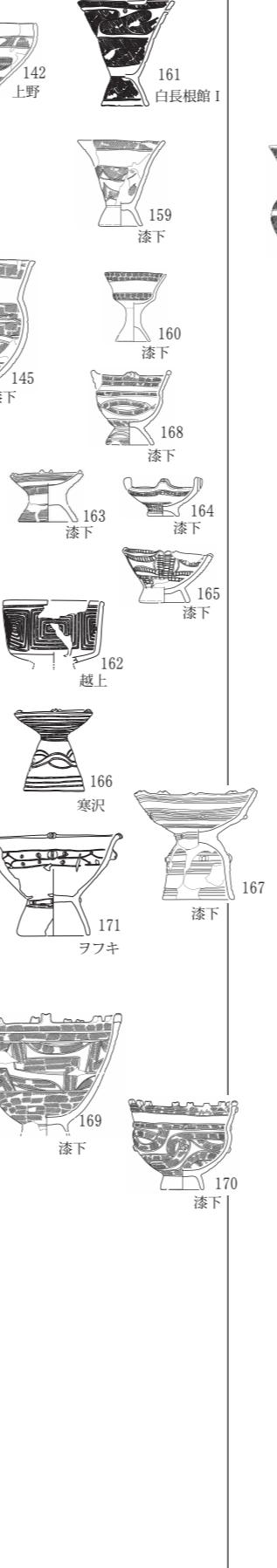
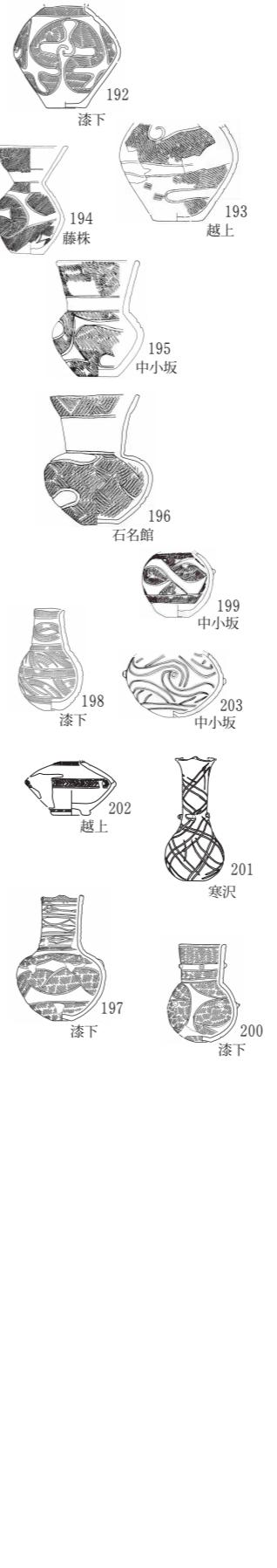
第37図 変遷模式図 1

	深鉢形土器	鉢形土器・台付鉢形土器	壺形土器	
縄文時代後期前葉	<p>Dai-sabachi (Deep Bowl-shaped Pottery)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>18: Ise-dai</li> <li>19: Toguro</li> <li>20: Ise-dai</li> <li>21: Kogane</li> <li>22: Kogane</li> <li>23: Kogane</li> <li>24: Ise-dai</li> <li>25: Chūō-han</li> <li>26: Toguro</li> <li>27: Toguro</li> <li>28: Ise-dai</li> <li>29: Ise-dai</li> <li>30: Ise-dai</li> <li>31: Ise-dai</li> <li>32: Ise-dai</li> <li>33: Ise-dai</li> <li>34: Ise-dai</li> <li>35: Ise-dai</li> <li>36: Ise-dai</li> <li>37: Ise-dai</li> <li>38: Ise-dai</li> <li>39: Ise-dai</li> <li>40: Ise-dai</li> <li>41: Ise-dai</li> <li>42: Ise-dai</li> <li>43: Ise-dai</li> </ul>	<p>Sabachi (Shallow Bowl-shaped Pottery) and Ta-sabachi (Pedestal Bowls)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>96: Hachimaki</li> <li>97: Ise-dai</li> <li>100: Toguro</li> <li>101: Ise-dai</li> <li>102: Ise-dai</li> <li>103: Ise-dai</li> <li>104: Ise-dai</li> <li>105: Ise-dai</li> <li>106: Ise-dai</li> <li>107: Ise-dai</li> <li>108: Ise-dai</li> <li>109: Ise-dai</li> <li>110: Ise-dai</li> <li>111: Ise-dai</li> <li>112: Ise-dai</li> <li>113: Ise-dai</li> <li>114: Ise-dai</li> <li>115: Kogane</li> <li>116: Ise-dai</li> <li>117: Ise-dai</li> <li>118: Ise-dai</li> <li>119: Ise-dai</li> <li>120: Ise-dai</li> <li>121: Ise-dai</li> <li>122: Ise-dai</li> <li>123: Ise-dai</li> <li>124: Toguro</li> <li>125: Ise-dai</li> <li>126: Ise-dai</li> <li>127: Ise-dai</li> <li>128: Ise-dai</li> <li>129: Ise-dai</li> <li>130: Ise-dai</li> <li>131: Ise-dai</li> <li>132: Ise-dai</li> <li>133: Ise-dai</li> <li>134: Ise-dai</li> <li>135: Ise-dai</li> <li>136: Ise-dai</li> <li>137: Ise-dai</li> <li>138: Ise-dai</li> <li>139: Ise-dai</li> <li>140: Ise-dai</li> <li>141: Ise-dai</li> <li>142: Ise-dai</li> <li>143: Ise-dai</li> <li>144: Ise-dai</li> <li>145: Ise-dai</li> <li>146: Ise-dai</li> <li>147: Ise-dai</li> <li>148: Ise-dai</li> <li>149: Ise-dai</li> <li>150: Ise-dai</li> <li>151: Ise-dai</li> <li>152: Ise-dai</li> <li>153: Ise-dai</li> <li>154: Ise-dai</li> <li>155: Ise-dai</li> <li>156: Ise-dai</li> <li>157: Ise-dai</li> <li>158: Ise-dai</li> <li>159: Ise-dai</li> <li>160: Ise-dai</li> <li>161: Ise-dai</li> <li>162: Ise-dai</li> <li>163: Ise-dai</li> <li>164: Ise-dai</li> <li>165: Ise-dai</li> <li>166: Ise-dai</li> <li>167: Ise-dai</li> <li>168: Ise-dai</li> <li>169: Ise-dai</li> <li>170: Ise-dai</li> <li>171: Ise-dai</li> <li>172: Ise-dai</li> <li>173: Ise-dai</li> <li>174: Ise-dai</li> <li>175: Ise-dai</li> <li>176: Ise-dai</li> <li>177: Ise-dai</li> <li>178: Ise-dai</li> <li>179: Ise-dai</li> <li>180: Ise-dai</li> <li>181: Ise-dai</li> <li>182: Ise-dai</li> <li>183: Ise-dai</li> <li>184: Ise-dai</li> <li>185: Ise-dai</li> <li>186: Ise-dai</li> <li>187: Ise-dai</li> <li>188: Ise-dai</li> <li>189: Ise-dai</li> <li>190: Ise-dai</li> <li>191: Ise-dai</li> <li>192: Ise-dai</li> <li>193: Ise-dai</li> <li>194: Ise-dai</li> <li>195: Ise-dai</li> <li>196: Ise-dai</li> <li>197: Ise-dai</li> <li>198: Ise-dai</li> <li>199: Ise-dai</li> <li>200: Ise-dai</li> <li>201: Ise-dai</li> <li>202: Ise-dai</li> <li>203: Ise-dai</li> <li>204: Ise-dai</li> <li>205: Ise-dai</li> <li>206: Ise-dai</li> </ul>	<p>Ku-chō (Jar-shaped Pottery)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>176: Ise-dai</li> <li>177: Ise-dai</li> <li>178: Ise-dai</li> <li>179: Ise-dai</li> <li>180: Ise-dai</li> <li>181: Ise-dai</li> <li>182: Ise-dai</li> <li>183: Ise-dai</li> <li>184: Ise-dai</li> <li>185: Ise-dai</li> <li>186: Ise-dai</li> <li>187: Ise-dai</li> <li>188: Ise-dai</li> <li>189: Ise-dai</li> <li>190: Ise-dai</li> <li>191: Ise-dai</li> <li>192: Ise-dai</li> <li>193: Ise-dai</li> <li>194: Ise-dai</li> <li>195: Ise-dai</li> <li>196: Ise-dai</li> <li>197: Ise-dai</li> <li>198: Ise-dai</li> <li>199: Ise-dai</li> <li>200: Ise-dai</li> <li>201: Ise-dai</li> <li>202: Ise-dai</li> <li>203: Ise-dai</li> <li>204: Ise-dai</li> <li>205: Ise-dai</li> <li>206: Ise-dai</li> </ul>	

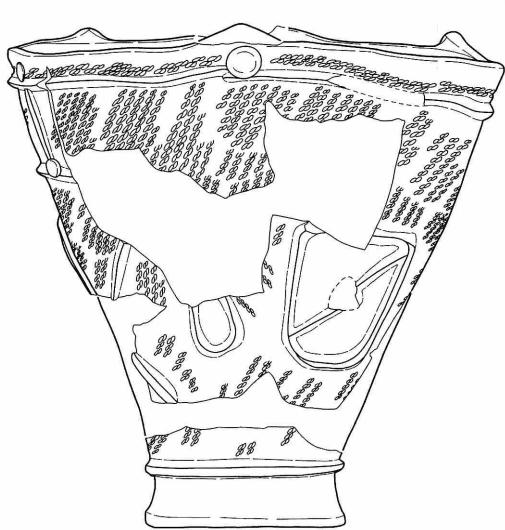
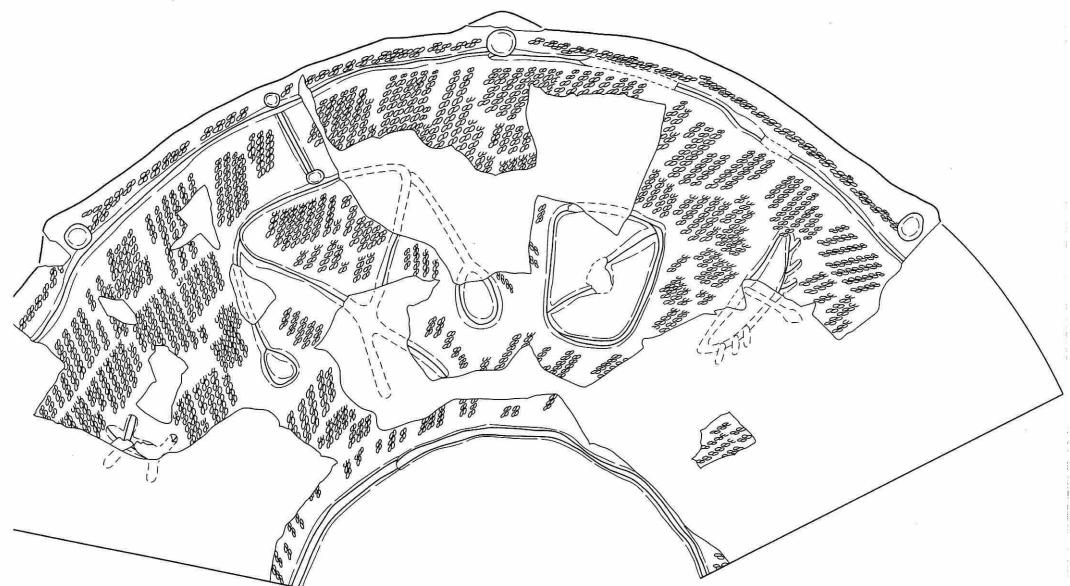
第38図 変遷模式図2

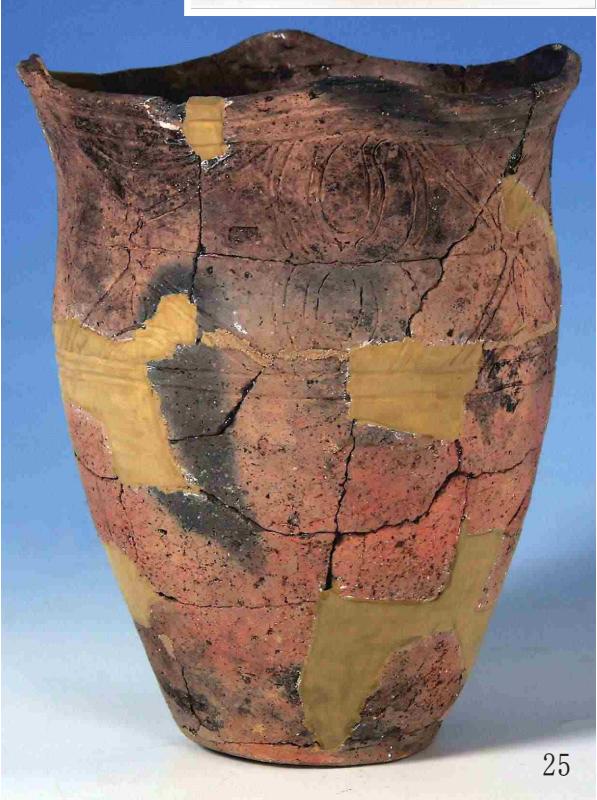
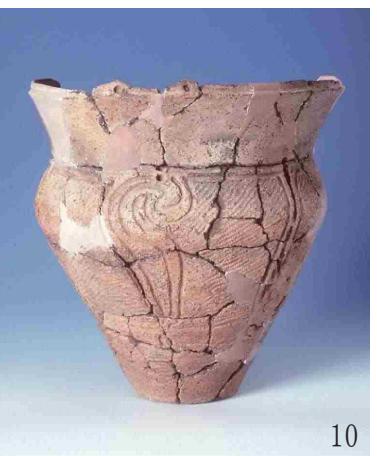
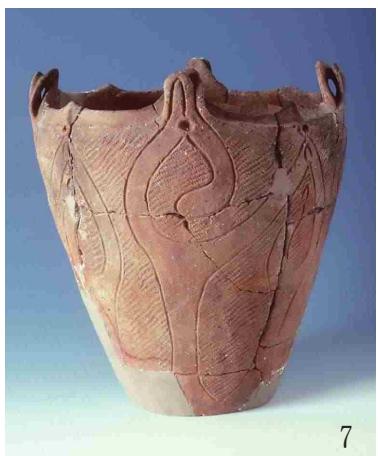


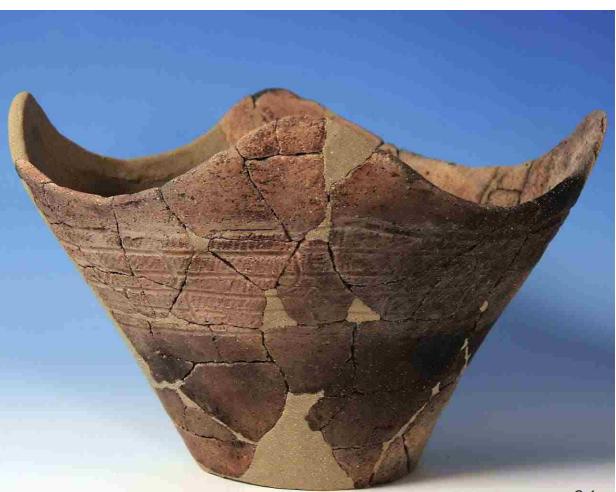
第39図 変遷模式図3

	深鉢形土器	鉢形土器・台付鉢形土器	壺形土器	注口土器	単孔土器	香炉
縄文時代後葉	 <p>73 ヲフキ 74 漆下 75 ヲフキ 76 堂ノ沢 77 漆下 78 漆下 79 漆下 80 漆下 81 漆下 82 漆下 83 堀ノ内 84 菖蒲崎 85 漆下 86 石名館 87 漆下 88 漆下 89 漆下 90 漆下 91 漆下 92 漆下 93 漆下 94 漆下 95 漆下 96 漆下 97 漆下 98 漆下 99 漆下 100 漆下 101 漆下 102 漆下 103 漆下 104 漆下 105 漆下 106 漆下 107 漆下 108 漆下 109 漆下 110 漆下 111 漆下 112 漆下 113 漆下 114 漆下 115 漆下 116 漆下 117 漆下 118 漆下 119 漆下 120 漆下 121 漆下 122 漆下 123 漆下 124 漆下 125 漆下 126 漆下 127 漆下 128 漆下 129 漆下 130 漆下 131 漆下 132 漆下 133 漆下 134 漆下 135 漆下 136 漆下 137 漆下 138 漆下 139 漆下 140 漆下 141 上野 142 上野 143 飛鳥平 144 漆下 145 漆下 146 漆下 147 漆下 148 中小坂 149 漆下 150 漆下 151 漆下 152 漆下 153 漆下 154 漆下 155 漆下 156 中小坂 157 漆下 158 漆下 159 漆下 160 漆下 161 白長根館I 162 越上 163 漆下 164 漆下 165 漆下 166 寒沢 167 漆下 168 漆下 169 漆下 170 漆下 171 ヲフキ 172 漆下 173 漆下 174 漆下 175 漆下 176 漆下 177 漆下 178 漆下 179 漆下 180 漆下 181 漆下 182 漆下 183 漆下 184 漆下 185 漆下 186 漆下 187 漆下 188 漆下 189 漆下 190 漆下 191 漆下 192 漆下 193 越上 194 藤株 195 中小坂 196 石名館 197 漆下 198 漆下 199 中小坂 200 漆下 201 寒沢 202 越上 203 中小坂 204 漆下 205 漆下 206 漆下 207 漆下 208 漆下 209 漆下 210 漆下 211 ヲフキ 212 ヲフキ 213 漆下 214 寒沢 215 漆下 216 漆下 217 ヲフキ 218 ヲフキ 219 漆下 220 漆下 221 漆下 222 漆下 223 漆下 224 漆下 225 漆下 226 ヲフキ 227 漆下 228 漆下 229 中小坂 230 漆下 231 漆下 232 漆下 233 漆下 234 漆下 235 漆下 236 漆下 237 漆下 238 漆下 239 漆下 240 漆下 241 小田IV 242 中小坂 243 八木 244 日廻岱A 245 日廻岱A 246 漆下 247 漆下 248 漆下 249 漆下 250 漆下 251 寒沢 252 桐内A 253 漆下 </p>	 <p>143 飛鳥平 142 上野 141 上野 144 漆下 145 漆下 146 漆下 147 漆下 148 中小坂 149 漆下 150 漆下 151 漆下 152 漆下 153 漆下 154 漆下 155 漆下 156 中小坂 157 漆下 158 漆下 159 漆下 160 漆下 161 白長根館I 162 越上 163 漆下 164 漆下 165 漆下 166 寒沢 167 漆下 168 漆下 169 漆下 170 漆下 171 ヲフキ 172 漆下 173 漆下 174 漆下 175 漆下 176 漆下 177 漆下 178 漆下 179 漆下 180 漆下 181 漆下 182 漆下 183 漆下 184 漆下 185 漆下 186 漆下 187 漆下 188 漆下 189 漆下 190 漆下 191 漆下 192 漆下 193 越上 194 藤株 195 中小坂 196 石名館 197 漆下 198 漆下 199 中小坂 200 漆下 201 寒沢 202 越上 203 中小坂 204 漆下 205 漆下 206 漆下 207 漆下 208 漆下 209 漆下 210 漆下 211 ヲフキ 212 ヲフキ 213 漆下 214 寒沢 215 漆下 216 漆下 217 ヲフキ 218 ヲフキ 219 漆下 220 漆下 221 漆下 222 漆下 223 漆下 224 漆下 225 漆下 226 ヲフキ 227 漆下 228 漆下 229 中小坂 230 漆下 231 漆下 232 漆下 233 漆下 234 漆下 235 漆下 236 漆下 237 漆下 238 漆下 239 漆下 240 漆下 241 小田IV 242 中小坂 243 八木 244 日廻岱A 245 日廻岱A 246 漆下 247 漆下 248 漆下 249 漆下 250 漆下</p>	 <p>192 漆下 193 越上 194 藤株 195 中小坂 196 石名館 197 漆下 198 漆下 199 中小坂 200 漆下 201 寒沢 202 越上 203 中小坂 204 漆下 205 漆下 206 漆下 207 漆下 208 漆下 209 漆下 210 漆下 211 ヲフキ 212 ヲフキ 213 漆下 214 寒沢 215 漆下 216 漆下 217 ヲフキ 218 ヲフキ 219 漆下 220 漆下 221 漆下 222 漆下 223 漆下 224 漆下 225 漆下 226 ヲフキ 227 漆下 228 漆下 229 中小坂 230 漆下 231 漆下 232 漆下 233 漆下 234 漆下 235 漆下 236 漆下 237 漆下 238 漆下 239 漆下 240 漆下 241 小田IV 242 中小坂 243 八木 244 日廻岱A 245 日廻岱A 246 漆下 247 漆下 248 漆下 249 漆下 250 漆下</p>	 <p>192 漆下 193 越上 194 藤株 195 中小坂 196 石名館 197 漆下 198 漆下 199 中小坂 200 漆下 201 寒沢 202 越上 203 中小坂 204 漆下 205 漆下 206 漆下 207 漆下 208 漆下 209 漆下 210 漆下 211 ヲフキ 212 ヲフキ 213 漆下 214 寒沢 215 漆下 216 漆下 217 ヲフキ 218 ヲフキ 219 漆下 220 漆下 221 漆下 222 漆下 223 漆下 224 漆下 225 漆下 226 ヲフキ 227 漆下 228 漆下 229 中小坂 230 漆下 231 漆下 232 漆下 233 漆下 234 漆下 235 漆下 236 漆下 237 漆下 238 漆下 239 漆下 240 漆下 241 小田IV 242 中小坂 243 八木 244 日廻岱A 245 日廻岱A 246 漆下 247 漆下 248 漆下 249 漆下 250 漆下</p>	 <p>212 ヲフキ 213 漆下 214 寒沢 215 漆下 216 漆下 217 ヲフキ 218 ヲフキ 219 漆下 220 漆下 221 漆下 222 漆下 223 漆下 224 漆下 225 漆下 226 ヲフキ 227 漆下 228 漆下 229 中小坂 230 漆下 231 漆下 232 漆下 233 漆下 234 漆下 235 漆下 236 漆下 237 漆下 238 漆下 239 漆下 240 漆下 241 小田IV 242 中小坂 243 八木 244 日廻岱A 245 日廻岱A 246 漆下 247 漆下 248 漆下 249 漆下 250 漆下</p>	 <p>251 寒沢 252 桐内A 253 漆下</p>

第40図 変遷模式図4









90



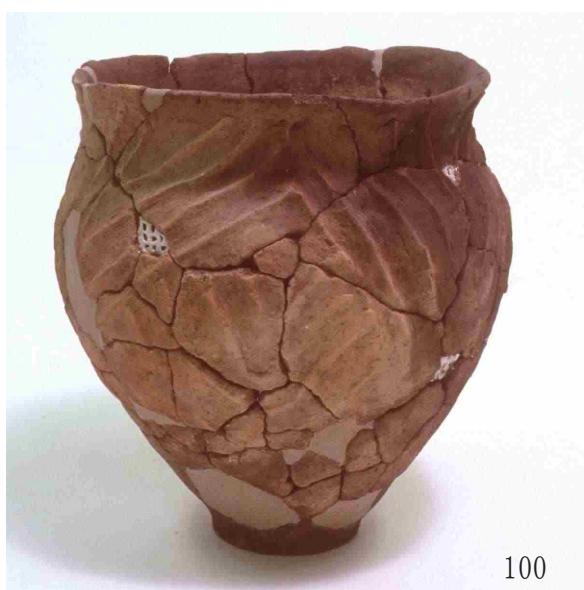
92



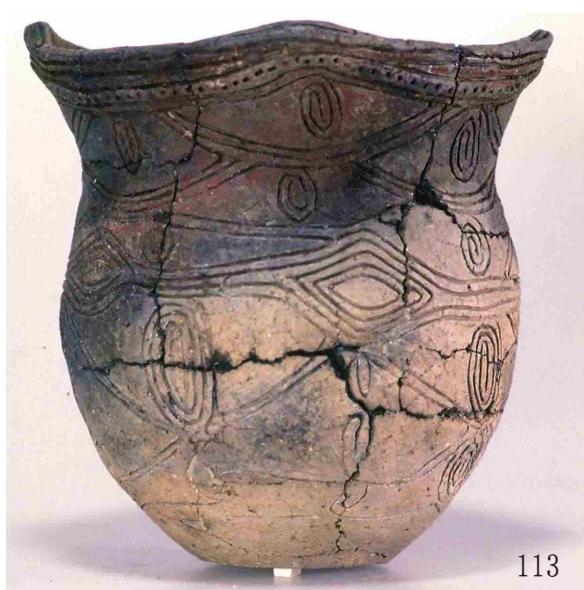
93



108



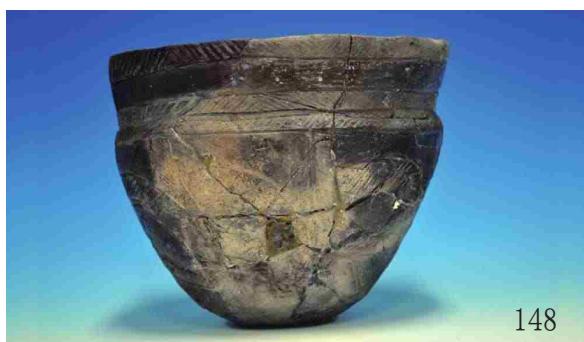
100



113



141



148



152



153



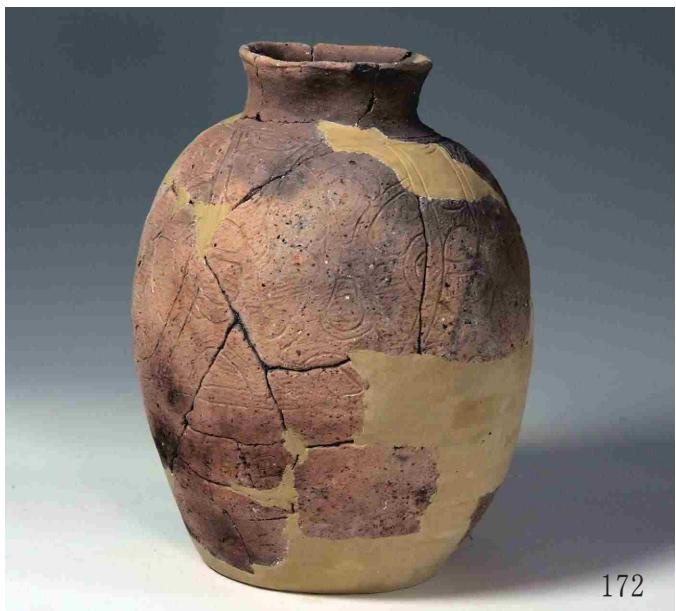
154



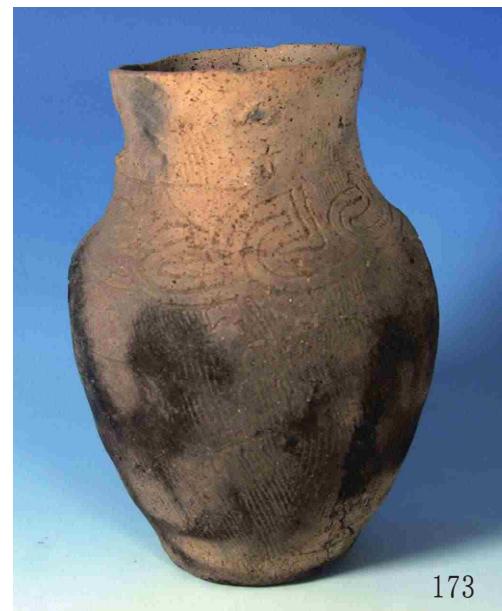
162



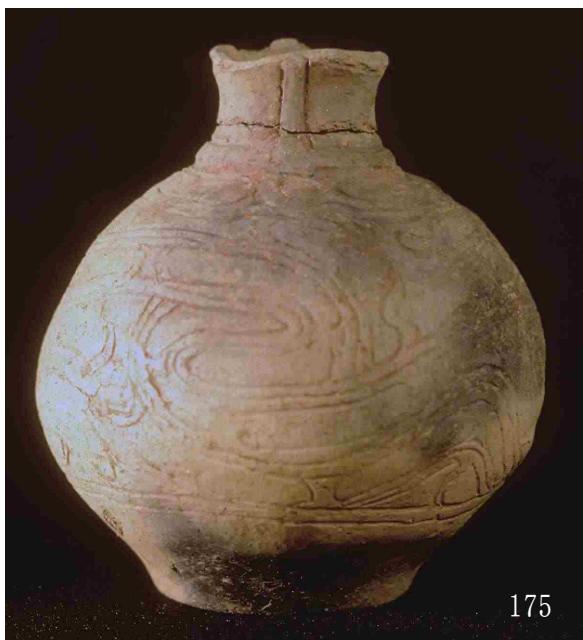
171



172



173



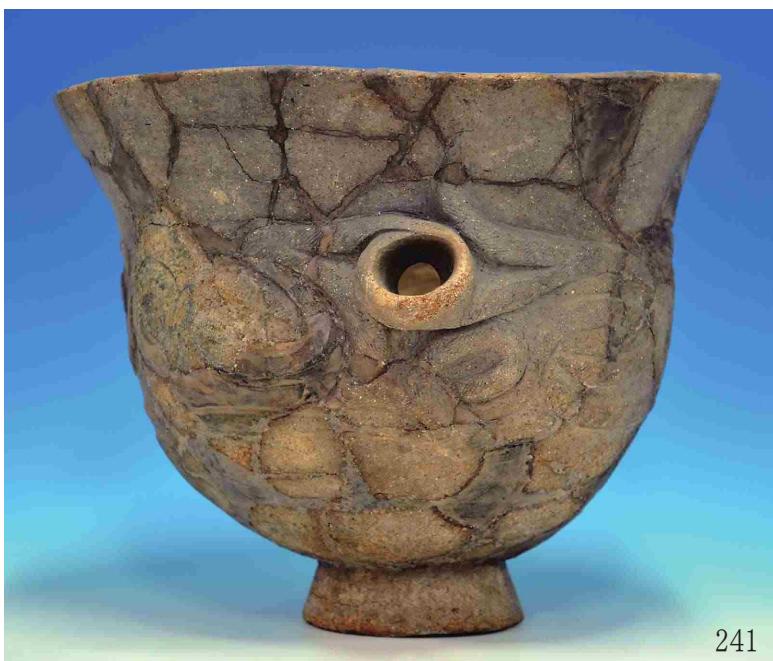
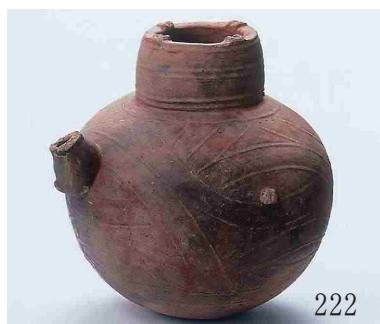
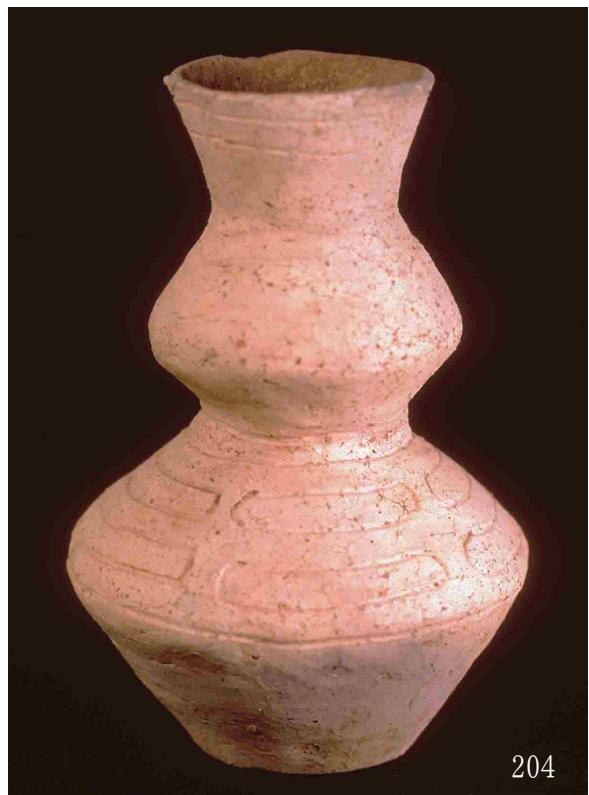
175

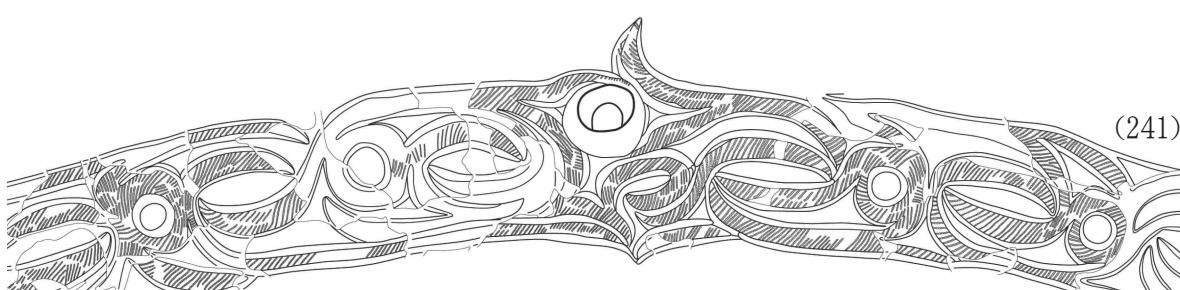
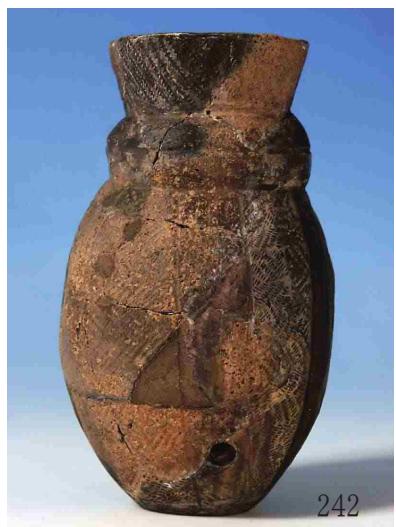
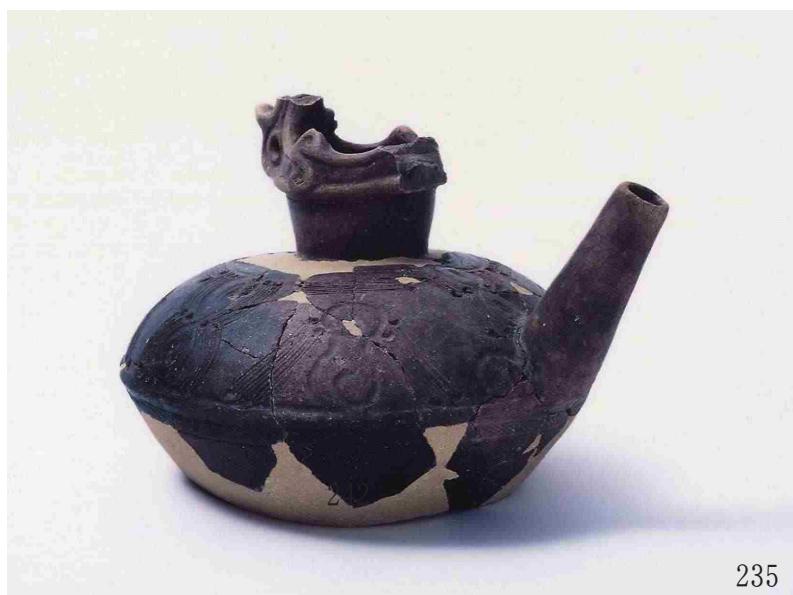
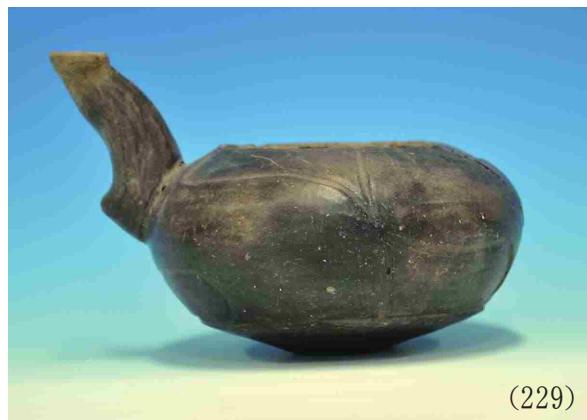


180



中小坂













秋田県埋蔵文化財基準資料  
縄文時代土器集成 I(後期)

発行年月 平成25年3月

編集・発行 秋田県埋蔵文化財センター  
〒014-0802  
秋田県大仙市払田字牛嶋20番地  
電話 0187-69-3331  
FAX 0187-69-3330  
URL [http://www.pref.akita.jp/  
gakusyu/maibun\\_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)  
E-mail maibun@pref.akita.lg.jp

印 刷 株式会社 三森印刷



---